

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年6月26日
【事業年度】	第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
【会社名】	WDBホールディングス株式会社
【英訳名】	WDB HOLDINGS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中野 敏光
【本店の所在の場所】	兵庫県姫路市豊沢町79番地
【電話番号】	079-287-0111（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 大塚 美樹
【最寄りの連絡場所】	兵庫県姫路市豊沢町79番地
【電話番号】	079-287-0111（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 大塚 美樹
【縦覧に供する場所】	WDBホールディングス株式会社 東京本社 （東京都千代田区丸の内2丁目3番2号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第34期	第35期	第36期	第37期	第38期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高 (千円)	41,569,779	43,108,338	44,126,189	46,875,964	47,602,446
経常利益 (千円)	4,989,090	4,961,186	5,243,922	6,393,458	5,614,843
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	2,922,634	3,114,138	3,405,323	4,171,272	3,540,641
包括利益 (千円)	2,852,725	3,089,455	3,499,569	4,336,627	3,946,694
純資産額 (千円)	16,273,791	19,687,208	22,302,570	25,796,427	28,463,963
総資産額 (千円)	23,462,893	26,545,151	30,619,873	33,828,472	36,198,765
1株当たり純資産額 (円)	820.28	974.38	1,105.08	1,272.25	1,405.74
1株当たり当期純利益 (円)	147.31	156.97	171.79	211.32	179.75
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.4	72.8	71.2	74.2	76.3
自己資本利益率 (%)	19.4	17.5	16.6	17.8	13.4
株価収益率 (倍)	21.0	13.4	15.1	12.9	11.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,322,379	3,043,033	4,202,316	4,025,808	3,553,397
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	432,761	531,094	122,139	6,104,010	337,989
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	388,661	428,027	901,390	870,926	1,307,767
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	13,275,043	16,187,529	19,360,521	16,426,445	18,370,835
従業員数 (人)	3,045	4,516	4,830	5,069	5,291
(外、平均臨時雇用者数)	(518)	(722)	(635)	(607)	(654)

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 従業員数は就業人員数であり、平均臨時雇用者数は()内に外書きで記載しております。
3. 従業員数に常用雇用派遣労働者を含めて記載しております。常用雇用派遣労働者数を除いた従業員数は、第34期が768人、第35期が826人、第36期が918人、第37期が966人、第38期が1,048人となっております。
4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第37期の期首から適用しており、第37期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第34期	第35期	第36期	第37期	第38期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
営業収益 (千円)	2,470,220	2,576,013	2,301,325	2,510,500	2,905,216
経常利益 (千円)	1,906,108	1,791,174	1,192,982	1,856,271	1,902,403
当期純利益 (千円)	1,430,231	1,907,837	1,112,988	1,807,637	1,669,197
資本金 (千円)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
発行済株式総数 (株)	20,060,000	20,060,000	20,060,000	20,060,000	20,060,000
純資産額 (千円)	9,622,694	11,036,525	11,253,269	12,230,045	12,656,202
総資産額 (千円)	10,226,116	11,816,197	12,063,090	13,680,827	13,594,174
1株当たり純資産額 (円)	485.03	556.30	570.10	619.58	644.44
1株当たり配当額 (円)	22.5	27.5	37.5	49.5	51.5
(うち1株当たり中間配当額)	(9.0)	(11.0)	(15.0)	(19.5)	(20.5)
1株当たり当期純利益 (円)	72.09	96.16	56.15	91.57	84.74
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	94.1	93.4	93.3	89.4	93.1
自己資本利益率 (%)	15.7	18.5	10.0	15.4	13.4
株価収益率 (倍)	42.9	21.9	46.2	29.7	23.4
配当性向 (%)	31.2	28.6	66.6	54.1	60.8
従業員数 (人)	10	11	11	10	11
(外、平均臨時雇用者数)	(3)	(3)	(3)	(7)	(4)
株主総利回り (%)	81.2	56.2	69.9	74.4	56.7
(比較指標: 配当込みTOPIX)	(95.0)	(85.9)	(122.1)	(124.6)	(131.8)
最高株価 (円)	4,165	3,395	3,475	3,835	2,873
最低株価 (円)	2,016	1,758	1,948	2,272	1,902

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 従業員数は就業人員数であり、平均臨時雇用者数は()内に外書きで記載しております。
3. 最高・最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所(プライム市場)におけるものであります。

2【沿革】

年月	事項
1985年7月	兵庫県姫路市において株式会社ワークデーターバンク（現 当社）を設立し、事務処理サービスを開始
1987年9月	労働者派遣事業許可を取得し、人材派遣業を開始
1991年4月	経営管理者紹介事業許可を取得し、人材紹介業を開始
2001年2月	兵庫県姫路市に工学系技術職の正社員型派遣事業を目的とした株式会社テディスを設立
2002年11月	WDB株式会社に商号変更
2003年9月	株式会社ヒューマンウエスト岡山支店・広島支店・高松支店・徳島支店の営業譲受
2004年1月	東京都千代田区に、バイオ化学系研究開発職の正社員型派遣事業を目的とした、WDBエウレカ株式会社（現 WDB 社内カンパニー）を設立
2005年3月	株式取得により、株式会社ゲノミックプレーンを完全子会社化
2005年11月	神戸市中央区に、人材の養成を目的として、WDB神戸基盤研究所（現 テクラボ神戸）を開設
2006年2月	財団法人日本情報処理開発協会より「情報セキュリティマネジメントシステム」の認証を取得（2007年4月にISO27001へ移行）
2006年3月	ジャスダック証券取引所に株式上場 英国認定機関より情報セキュリティマネジメントシステムの英国規格である「BS7799」の認証を取得（2007年4月にISO27001へ移行）
2008年3月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
2010年4月	東京都千代田区に、医薬品・医薬部外品・化粧品等の開発支援を目的とした、WDBメディカル株式会社（現 WDBココ株式会社）を設立 東京都千代田区に、M&A等の調査、企画立案、斡旋及び仲介業務を行う事業承継パートナーズ株式会社（現 WDB事業承継パートナーズ株式会社）を設立
2011年4月	株式取得により、株式会社アイ・シー・オー（現 WDBココ株式会社）を完全子会社化
2011年6月	障がいのある方の自立と安定的な職場の確保を図ることを目的としたWDB独歩株式会社を設立
2011年11月	人材サービス事業を、新設分割により設立したWDB株式会社に承継させ、純粋持株会社へ移行 商号を、WDBホールディングス株式会社に変更
2012年4月	研究職人材のマネジメント能力と総合力の向上のための教育を目的に、WDBユニバーシティ株式会社（現 WDB株式会社）を設立
2012年11月	グループの事業再編を目的として、株式会社アイ・シー・オーとWDBメディカル株式会社を合併し、WDBアイシーオー株式会社（現 WDBココ株式会社）に商号変更
2012年12月	工学系分野における研究者・技術者の派遣および人材紹介を目的に、WDB工学株式会社を設立
2013年3月	株式取得により、有限会社電助システムズ（現 WDB臨床研究株式会社）を完全子会社化
2013年12月	東京証券取引所市場第一部に指定
2014年4月	株式取得により、株式会社カケンジェネックスを完全子会社化
2015年8月	CRO事業を海外に展開することを目的に、WDB Medical Data, Inc.を米国ペンシルベニア州に設立
2016年2月	CRO事業を海外に展開することを目的に、WDB India Pvt, Ltd.をインド・ハイデラバードに設立
2016年4月	創薬研究のための実験業務を代行することを目的に、WDBケミカルラボラトリー株式会社（現 WDB株式会社）を設立
2017年2月	インターネットを利用した各種情報提供サービスを行うことを目的に、ネゾット株式会社を設立
2017年3月	株式取得により、Oy Medfiles Ltd.を完全子会社化
2017年6月	株式取得により株式会社コーブリッジを完全子会社化
2018年4月	WDB株式会社がWDBエウレカ株式会社を吸収合併し、社内カンパニーとしてエウレカ社を新設
2019年12月	WDBココ株式会社が、東京証券取引所マザーズに上場
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からプライム市場へ移行 同じく、WDBココ株式会社が東京証券取引所のマザーズ市場からグロース市場へ移行

3【事業の内容】

当社の企業集団は、当社（純粋持株会社）及び子会社16社により構成されており、主として人材派遣を中心とした人材サービス関連事業を展開しております。

人材サービス事業（人材派遣・人材紹介等）

人材派遣とは、当社が当社の雇用する社員を顧客に派遣し、顧客の業務を支援するサービスであります。当社より顧客に派遣される社員は、顧客の指揮命令に従って業務を行います。本事業は、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」（以下、「労働者派遣法」といいます。）の適用を受けます。

人材派遣には、「登録型派遣」と「常用雇成型派遣（正社員型派遣）」があります。「登録型派遣」は、当社に登録している求職者を有期雇用した上で派遣し、「常用雇成型派遣（正社員型派遣）」は、当社が正社員として雇用している社員を派遣します。

また、人材紹介とは、当社に登録する求職者を顧客に紹介することで、顧客の採用活動を支援するサービスであります。本事業は、「職業安定法」の適用を受けます。

当社グループの人材サービス事業は、大きく以下3つの分野を扱っております。

（理学系研究職）

バイオ系（遺伝子、微生物、酵素、免疫、細胞、薬理、動物実験等）および化学系（有機合成、材料・素材、分析・解析等）の分野における専門的な能力、経験を有する人材を派遣および人材紹介しております。主な顧客は、製薬・食品・化学等の製造業における研究開発部門・品質管理部門および、公的機関・大学の研究室であります。

（工学系技術職）

金型設計、部品設計、2次元・3次元CAD、流体力学、熱力学、発電、ソフトウェア設計・開発、土木・建築等の分野における専門的な能力、経験を有する人材を派遣および人材紹介しております。主な顧客は、電気・電子・精密機械等の製造業における機械設計部門、電気・電子機器設計部門、ソフトウェア開発部門、検査部門であります。

（一般事務職）

事務用機器操作、通訳、秘書、ファイリング、経理、取引文書作成、受付、OAインストラクター、テレマーケティング等の経験を有する人材を、様々な業種の企業へ派遣および人材紹介しております。

CRO事業

主に医薬品メーカー、医療機器メーカーを対象とし、医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器等の開発業務の代行・支援を行っております。国内では安全性情報管理の分野を中心に事業を行っており、海外では開発業務全般を扱っております。

当社グループの事業内容及び子会社の当該事業に係る位置付けは、以下のとおりです。

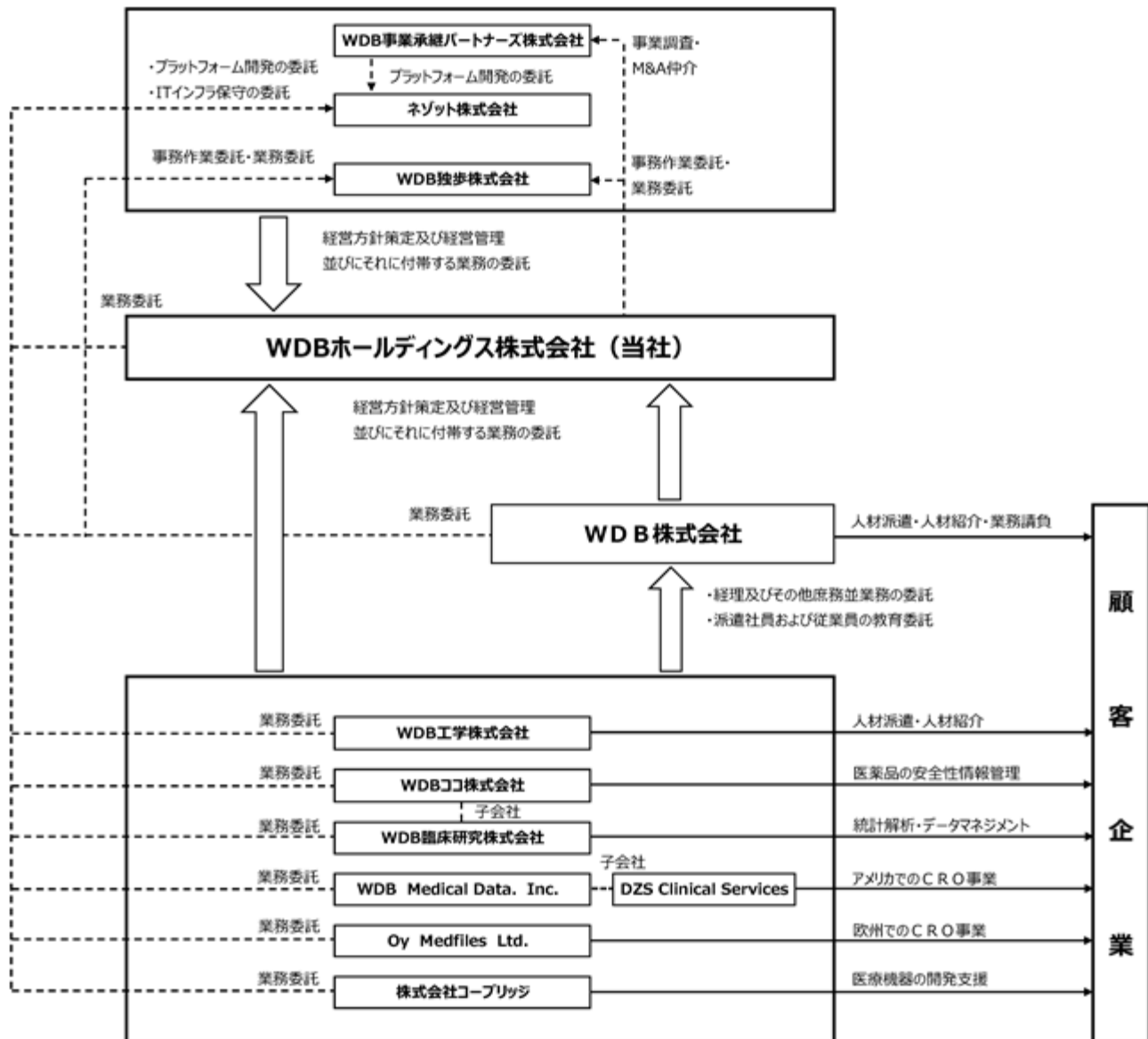
セグメント名称	区分	事業内容	主要な会社
人材サービス事業	人材派遣	登録型派遣、常用雇成型派遣として、主に理学系研究職の派遣	WDB(株)
		常用雇成型派遣として、主に工学系技術職の派遣	WDB工学(株)
	人材紹介他	人材紹介、紹介予定派遣	WDB(株)、WDB工学(株)
CRO事業	CRO	医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器等の基礎研究における実験業務および臨床試験以降における開発業務の代行・支援	WDBココ(株)、WDB臨床研究(株)、Oy Medfiles Ltd.、(株)コーブリッジ、DZS Clinical Services, Inc.

（注）上記のほか、ネソット株式会社において、人材サービス事業やCRO事業等に関するプラットフォームの開発・運用・保守を行っております。

なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当し、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準のうち、上場会社の規模との対比で定められる数値基準については連結ベースの計数に基づいて判断することとなります。

〔事業系統図〕

事業の系統図は、以下のとおりであります。



(注) ———▶ はグループ外との取引、 - - - - -▶ はグループ内の取引であり、
グループ内の取引には金銭貸借取引及び事務所の賃貸取引は含まれておりません。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) WDB株式会社 (注)2、5	東京都千代田区	450	理学系研究職の登録型・ 常用雇用型派遣及び人材 紹介	100	役員の兼任3名 業務の受託・委託 資金の借入 事務所の賃貸
WDB工学株式会社 (注)2	東京都千代田区	200	工学系研究職・技術職人 材の常用雇用型派遣	100	役員の兼任3名 業務の受託
WDBココ株式会社 (注)2、3	東京都中央区	279	医薬翻訳・薬事申請・医 薬品等開発受託	68	役員の兼任1名 業務の受託
WDB臨床研究株式会社	東京都中央区	50	医薬品開発等のデータマ ネジメント・統計解析	68 (68)	役員の兼任3名 業務の受託
株式会社コーブリッジ	東京都千代田区	50	薬事申請サービス、MF 登録申請・国内管理人業 務	100	役員の兼任2名 業務の受託
Oy Medfiles Ltd.	フィンランド	千ユーロ 112	医薬品等の申請・承認関 連の支援業務、医薬分野 におけるラボラトリー サービス事業	100	役員の兼任1名 業務の受託
WDB Medical Data, Inc. (注)2	アメリカ	千米ドル 4,000	CRO事業	100	役員の兼任2名 業務の受託 資金の貸付
DZS Clinical Services, Inc.	アメリカ	千米ドル 752	医薬品等の申請・承認関 連の支援業務	100 (100)	役員の兼任なし 業務の受託
WDB事業承継パートナーズ 株式会社	東京都千代田区	10	企業の買収・合併等の調 査、企画立案、斡旋及び その仲介業務	100	役員の兼任3名 業務の受託・委託
WDB India Pvt, Ltd. (注)2、4	インド	千ルピー 130,000	有機化合物の実験代行 サービス	100	役員の兼任なし
ネゾット株式会社 (注)2	東京都千代田区	200	プラットフォームの開 発・運営・管理	100	役員の兼任3名 業務の受託・委託 資金の貸付
その他5社	-	-	-	-	-

(注)1. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

2. 特定子会社であります。

3. 有価証券報告書を提出しております。

4. WDB India Pvt, Ltd.は、当連結会計年度末時点において清算手続き中であります。

5. WDB株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	39,163,855千円
	経常利益	4,418,445千円
	当期純利益	3,166,210千円
	純資産額	13,781,709千円
	総資産額	18,949,412千円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2023年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
人材サービス事業	4,594	(575)
CRO事業	686	(75)
全社(共通)	11	(4)
合計	5,291	(654)

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数(時間給のフレックス社員及びパートタイマーを含みます。)は、最近1年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
3. 前連結会計年度末に比べ従業員数が222名増加しております。主な理由は、人材サービス事業の正社員型スタッフの増加によるものであります。

(2) 提出会社の状況

2023年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
11 (4)	49.40	14.31	6,940

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数(時間給のフレックス社員及びパートタイマーを含みます。)は、最近1年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 当社は純粋持株会社であるため、セグメント別の従業員数は記載しておりません。
4. 当社の従業員は、子会社であるWDB株式会社からの出向であります。そのため、出向の従業員に係る平均勤続年数は、出向元の勤続年数を通算して算出しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異 連結子会社

名称	当事業年度				
	管理職に占める 女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の 育児休業取得率(%) (注)2.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.		
			全労働者	うち正規雇用 労働者	うちパート・ 有期労働者
WDB(株)	28	0	74	81	100
WDB工学(株)	100	0	66	96	67
WDBココ(株)	64	0	89	87	76

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「埋もれた価値を発掘し、新たな価値を創造していく会社でありたい」と考え、事業運営を行ってまいりました。

その結果、理学系（化学・バイオ系）研究職への人材サービス事業という新たな市場を開拓し、現在では、理学系研究職派遣で働く人の3人に1人が、当社グループより就業しています。また、当社グループは、人材サービスおよびCROサービスを、プラットフォームを通じて提供することで、両業界の標準と比較して、より利便性が高いサービスを、より低いコストで提供することを目指しています。当社グループの多様な経営資源を組み合わせることにより、新たな価値を創造し、自身の企業価値も高めていく、そんな企業グループでありたいと考えています。

その実現の為に、四つのビジョンを掲げています。

顧客に対するビジョン＝仕事ではなく「価値」の提供

顧客に対して、「何をするか」ではなく、「どのような役に立てるのか」、「どのような価値を提供できるのか」と考え、対価に対して納得いただけるように真剣に取り組めます。

私たちの会社を通じて働く人たちへのビジョン＝「働く喜び」の提供

「働くことそのもの」を扱う会社として、仕事の内容、報酬、ライフスタイルに合った働き方、自己の成長などの様々な要素から、働く人それぞれに「働く喜び」を提供できる会社でありたいと考えています。派遣社員および社内の従業員に対してそれぞれの働く喜びを提供し、その喜びの重なりが、事業を形作っていく会社であることを目指します。

私たち自身に対するビジョン＝「誇りをもって働ける」会社

各社員が、WDBグループが果たすべき社会的責任を認識し、その一部を担っているのは自分であると思える強い意識を持つことと、今まで積み上げてきた仕組みであっても、状況に応じてスクラップ&ビルドする勇気と覚悟を持つこと。その気概こそWDBグループ社員の誇りであり、グループを牽引する原動力となっています。

ステークホルダーに対するビジョン＝「価値」の還元

株主、派遣社員、グループ従業員、地域社会など、すべてのステークホルダーに対する経営責任を果たしていきます。高付加価値サービスを提供し続け、企業として発展し、利益を株主に還元することや、新たな雇用を創出し、社会に貢献していくことなどを通じ、WDBグループの価値を高め続けます。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、売上高営業利益率、売上高経常利益率および自己資本利益率（ROE）を重要な経営指標と捉えております。今後も収益力の拡大に注力し、株主価値の向上に努めてまいります。なお、過去5年間の実績は以下の通りです。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高営業利益率	11.9%	11.5%	11.6%	13.5%	11.6%
売上高経常利益率	12.0%	11.5%	11.9%	13.6%	11.8%
ROE	19.4%	17.5%	16.6%	17.8%	13.4%

ROEについては、15%以上を目標として設定しております。純利益額を高めることによって、ROEを向上させていく方針です。

(3) 会社の優先的に対処すべき課題および中長期的な会社の経営戦略

人材サービス事業の事業環境については、新型コロナウイルス感染症の流行が収束に向かいつつあり、国内の採用環境は、再び逼迫しております。

当社は、そのような事業環境に対応するため、全国に派遣社員を対象とした研修施設を持ち、実務経験が豊富ではない求職者であっても、就業ができる仕組みをつくり上げてまいりました。また、雇用した派遣社員が長期間安心して働くことができるよう、就業中の手厚いフォローと研修を行う体制も、長年かけて整えております。

それらに加え、2023年3月期、2024年3月期の2年間をかけ、事業の質的転換に取り組んでおります。派遣スタッフへの報酬をアップし、研修とフォローの仕組みをより強化することでスタッフの調達力を大きく高め、今まで以上の顧客満足・スタッフ満足を追求していきます。報酬アップの原資は、ドコニコをはじめとしたプラットフォームを通じてサービスを提供することで、業務を効率化し、販管費を削減することで捻出します。また、同様の戦略を取ることで事務職派遣市場へも本格的に参入いたします。営業利益率は若干低下いたしますが、10%は維持し、売上、利益を拡大してまいります。

CRO事業については、製薬企業を取り巻く環境が厳しくなり続けていることから、CROへの委託ニーズがより高まっており、市場規模は拡大していく見通しです。また、既存のCROは、経験者を高給で採用し、受託した業務を処理する事業モデルであるため、高コスト体質から抜けきれておらず、それが製薬企業への受託料金の高止まりにも反映されております。当社は派遣業界で培ったノウハウを活かし、未経験者を採用して育成し、経験者と組み合わせることで業務を処理する事業モデルを取ることで、受託料金を下げながらも高品質のサービスを提供しております。また、このノウハウは海外でも通用するという考えのもと、海外へも進出し、事業展開を行っております。また、人材サービス事業と同様に、プラットフォームを通じた事業展開を行い、より利便性の高いサービスを顧客に提供してまいります。

2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方および取組は、以下の通りであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) サステナビリティ全般に関するガバナンス及びリスク管理

当社グループでは、サステナビリティに関するリスク状況を、毎月の取締役会およびグループ各社における経営会議の場にて監視し、管理しております。特に注視している項目は、(2)の重視しているサステナビリティ項目に記載の通りです。なお、詳細は当社ウェブサイトのサステナビリティページもご参照ください。

<https://www.wdbhd.co.jp/sustainability/>

(2) 重視しているサステナビリティ項目

当社の考えるサステナビリティとは「人材サービス・CROサービスを提供する会社として、将来にわたり発展し続けること」です。具体的には、「事業を発展させ続けられる地球環境を維持すること」「従業員、顧客、取引先や地域社会といったステークホルダーと良好な関係を維持すること」「法令順守や機密保持、リスク管理の仕組みを機能させられる企業統治を行うこと」を掲げています。

顧客との関係

顧客に対しては、「成果を保証する」こと、「新しい価値を生み出すこと」を目指し、高品質なサービスの提供に努めています。そのために、派遣社員の適性を十分に見極めた上で派遣することに加え、顧客への定期的な訪問などにより、顧客満足度の状況を定期的にモニタリングし、必要に応じた改善やさらなるサービスの高度化に向け取り組みを図っています。

派遣社員の状況

当社グループを通じて就業する派遣社員が、満足して就労し続けられるようにすることは、派遣会社として将来にわたって事業を続けていくために、最も重要なことであると考えております。そのために、当社グループでは、希望に合った仕事を紹介し、十分な待遇をすることにより、満足して長期安定就業できるように努めております。

また、本来は派遣ではなく、正社員としての雇用を望んでいる派遣社員に対しては、研修及び転職の支援を行うことで、キャリアの形成を行えるように努めております。当社では、これらに関する指標（退職率、平均給与、転職支援実施数など）を定点観測しております。

従業員の状況

当社グループはこれまで、性別、国籍、新卒・中途採用を問わず、必要な人材を採用しております。その結果、女性従業員数は、全従業員の77%、管理職の27%を占めております。また、中途採用の従業員数は、全従業員の79%、管理職の36%を占めております。

当社では、今後の事業展開に必要な人材を採用することを、採用方針の軸に置いております。採用判断は能力においてのみ行い、女性や外国籍の社員の採用数を数値目標として持つという考えはございませんが、D&Iが推進・奨励されるなか、結果としての女性比率、外国人比率、中途採用比率、を計測・把握することで、採用判断の偏りを間接的に確認しています。

一方、女性従業員が能力を十分に発揮できるよう、柔軟な働き方ができる制度の設計、運営には長年取り組んでおります。今後も、企業価値の向上を図るための人材育成及び社内環境の整備に引き続き努めて参りますが、当該内容に関する具体的な指標については今後検討して参ります。長期的な人材育成方針については現在検討中です。

ガバナンス

当社は、監査等委員会設置会社の機関設計を採用しております。事業及び業務に精通した内部の取締役が行う意思決定を、独立性が高い専門家である社外取締役が監督する形態を取り、意思決定に関するスピードと、妥当性、公正性の両立を目指しております。

当社の取締役会では、上程される議案に関する議論に加えて、経営に関する様々な議論を行っており、この中でサステナビリティにかかる検討、長期的な事業戦略について検討を行っております。

今後は、に記載した顧客満足度、派遣社員に関する指標（退職率、平均給与、転職支援実施数など）、に記載した従業員の状況に関する指標（女性従業員比率、中途採用者比率、外国人比率など）も長期的な事業成長、事業戦略における指標としての活用方法を検討していく所存です。

3【事業等のリスク】

当社グループの事業等に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項は以下のとおりであります。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 派遣社員の確保について

当社グループの営む事業の性質上、求職者の確保・育成を十分に行えるかどうか、競争力を高めていく上で重要なポイントとなります。特に、当社グループの主力分野である理学系研究職の人材派遣においては、派遣先企業の求めるスキルや経験を有する求職者を速やかに選任できる体制を整えることが、事業拡大には不可欠な要素であると考えており、全国に技術研修のための施設を設け、求職者を教育・養成する戦略を取っております。しかしながら、雇用情勢の変化等により派遣先企業が要望する求職者を十分に確保できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 法的規制ならびに関連法規の改正について

人材派遣事業は、「労働者派遣法」、「労働契約法」を中心とした、労働に関する各種法令の適用を受けます。また、人材紹介事業は、「職業安定法」の適用を受けます。当社グループは法令順守を重視した事業運営を行っており、現在までに労働者派遣法および職業安定法の欠格事由（注）に該当する事実や業務停止命令を受ける法令違反の事実はありませんが、万一当社グループがこれに該当することがあれば、労働者派遣事業および人材紹介事業を行えない、もしくは一時的に停止する状況となり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

また、労働者派遣法および関連諸法令については、労働市場をとりまく状況の変化等に応じて今後も適宜、改正が予想され、今後の改正内容によりましては、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

（注）人材派遣事業の欠格事由は労働者派遣法第6条に、人材紹介事業の欠格事由は職業安定法第32条にそれぞれ定められております。

(3) 企業買収に伴うリスクについて

当社グループは、主にCRO事業において企業買収を進めております。買収にあたっては、対象企業に対する十分なデューデリジェンスを行い、買収後も定期的なモニタリング体制を取っております。今後、企業買収を行い、計画通りの事業展開ができなかった場合には減損会計の適用に伴うのれんの減損処理が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 個人情報の管理について

当社グループは、人材サービス関連事業を行っているため、多数の社員および求職者の個人情報を有しております。これらの個人情報保護と派遣先企業、派遣労働者からの信頼の向上のため、当社グループでは個人情報保護関連規程をはじめとするコンプライアンスプログラムを作成・運用しております。また、2001年9月には財団法人日本情報処理開発協会(現 一般財団法人日本情報経済社会推進協会)より個人情報の適切な取扱事業者に付与される「プライバシーマーク」の認定をWDB株式会社が取得しております。しかしながら、万一個人情報の漏洩や不正使用等の事態が発生した場合、企業イメージが悪化し、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(5) 自然災害等の影響について

当社グループの想定を大きく上回る規模での台風・地震・洪水・疫病等の自然災害や事故により、当社グループや主要顧客の事業活動の停止又は事業継続に支障をきたす事態が発生した場合には、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 海外事業の拡大に伴うリスクについて

当社グループは、CRO事業において、米国および欧州での事業展開を行っております。現在は、まだグループ全体への影響は少ない状況ですが、各国における政治・社会体制の急激な変化などが発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 社会保険(健康保険および厚生年金保険)の改定に伴う影響について

制度改革に伴う社会保険料の料率改定や、社会保険加入要件の見直し等により、雇用事業主である当社グループの社会保険料負担が増減した場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(8) 技術革新に伴う省人化・無人化について

当社グループは、AIやロボットをはじめとした技術革新に伴い、将来的には当社の顧客が労働者をさほど雇用することなく事業を行える状況になると考えております。当社グループではそのような状況を見据えた事業展開に取り組んでおりますが、想定以上のスピードで技術革新およびそれに伴う省人化・無人化が進み、人材サービスの需要が大きく減少した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(経営成績等の状況の概要)

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における日本経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症による影響を受けたものの、ワクチンおよび感染防止策の浸透により、当社グループの事業への影響は軽微に留まりました。

厚生労働省が発表した有効求人倍率(季節調整値)は、2022年4月～2023年3月の平均値が1.31倍となり、2021年4月～2022年3月の平均値と比べ、0.15ポイント上昇いたしました。また、総務省が発表した完全失業率(季節調整値)は、2022年4月～2023年3月の平均値が2.6%となり、2021年4月～2022年3月の平均値と比べ、0.2ポイント低下いたしました。前期と比較して、求人数が増加、失業率が低下しており、人材獲得の難易度はより高まりました。また、当社グループの主要顧客である、医薬品・化学・食品メーカーなどの研究所・品質管理部門、大学・公的機関の研究所からの新規の派遣依頼および受注数については、昨年度と同等の水準で推移いたしました。

人材サービス事業においては、2022年5月13日に公表した中長期経営計画に基づき、派遣スタッフおよびグループ従業員の待遇改善を実施いたしました。就業中の派遣スタッフに対しては、2022年7月より報酬のアップを行い、新規募集する派遣スタッフについても、改定した報酬に基づいて求人活動を行いました。その結果、就業中の派遣スタッフの退職率の低下および新たな派遣スタッフの獲得につながり、稼働人数の増加を実現いたしました。また、派遣スタッフ以外の当社グループ従業員についても、報酬のベースアップを実施し、優秀な人材の確保に努めました。

派遣サービスプラットフォーム「ドコニコ」については、機能の改良および顧客・見込み客・派遣スタッフへの浸透活動を進めるとともに、オンラインでの営業活動を基本とし、ドコニコによる業務効率化の効果を最大限に発揮できるよう、組織の最適化に取り組みました。

(中長期経営計画 <https://www.wdbhd.co.jp/assets/pdf/ir/about/management-policy220513.pdf>)

CRO事業については、WDBココ株式会社およびフィンランドのメドファイルズ社を中心とし、各社において、既存の事業に取り組みながら、人材サービス事業と同様に、プラットフォームを通じたサービスを行えるよう、開発を進めました。

以上の活動の結果、当連結会計年度の売上高は47,602百万円（前期比1.5%増）となりました。営業利益は5,508百万円（前期比12.8%減）、経常利益は5,614百万円（前期比12.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は3,540百万円（前期比15.1%減）となりました。なお、当社が重視している経営指標である売上高営業利益率は11.6%（前期比1.9ポイント低下）、売上高経常利益率は11.8%（前期比1.8ポイント低下）、ROEは13.4%（前期比4.3ポイント低下）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。
なお、セグメント利益は、セグメント間取引消去前の金額であります。

人材サービス事業

当セグメントの売上高は、40,855百万円（前期比1.5%増）、セグメント利益は、4,911百万円（前期比12.8%減）となりました。減益となった要因は、派遣スタッフの報酬アップに伴う売上原価の増加、グループ従業員の報酬ベースアップに伴う販管費の増加であります。

CRO事業

当セグメントの売上高は、6,746百万円（前期比6.6%増）、セグメント利益は、1,096百万円（前期比5.1%増）となりました。アメリカでの業績が振るわなかったものの、WDBココを中心とした国内の業績は堅調に推移し、増収増益となりました。なお、フィンランドのメドファイルズ社の事業については、ウクライナ情勢が引き続き懸念されるものの、現在のところ影響はありません。

(2) キャッシュ・フローの状況

資金需要

当社グループの資金需要のうち主なものは、運転資金（派遣社員および従業員給与等の人件費、家賃）、法人税の支払いならびに配当金の支払いであります。

財務政策

当社グループの資金需要は、営業活動の結果得たキャッシュ・フロー等の自己資金で賄っております。

キャッシュ・フローの状況と主な増減要因

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ1,944百万円増加し、18,370百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況と増減要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前当期純利益5,548百万円を計上しましたが、法人税等の支払額が2,364百万円となったこと等により、3,553百万円の収入（前期は4,025百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、主に有形固定資産の取得による支出275百万円があったことにより、337百万円の支出（前期は6,104百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、主に配当金の支払額996百万円および自己株式の取得による支出258百万円があったことにより、1,307百万円の支出（前期は870百万円の支出）となりました。

資金の振り分け方針

営業活動により得られた資金を元に、企業買収、システムの改築、人材採用などに投資を行います。また、株主還元については、従来は配当性向30%を目安としておりましたが、2024年3月期以降は、40%を目安といたします。詳細は、2023年5月12日に開示いたしました、以下の内容をご参照ください。

(https://www.wdbhd.co.jp/assets/pdf/ir/press/press230512_2.pdf)

(3) 生産、受注及び販売の状況

生産実績

当社グループは、主として人材サービス事業を営んでおり、提供するサービスの性格上、生産実績の記載になじまないため、記載しておりません。

受注状況

生産実績と同様の理由により、記載しておりません。

販売実績

当社グループは、主として人材サービス事業を営んでおり、当連結会計年度における売上実績の内訳は、以下のとおりであります。なお、セグメント別の利益につきましては、「セグメント情報」をご参照ください。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
	金額(千円)	構成比
人材サービス事業	40,855,532	85.8%
(理学系研究職)	32,173,205	67.6%
(工学系技術職)	2,605,060	5.5%
(一般事務職)	4,979,861	10.5%
(その他派遣)	452,704	1.0%
(人材紹介他)	644,700	1.4%
CRO事業	6,746,914	14.2%
合計	47,602,446	100.0%

(注)セグメント間の取引については、相殺消去しております。

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

(1) 経営成績の分析

「経営成績等の状況の概要 (1) 財政状態及び経営成績の状況」に記載の通りであります。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当連結会計年度末における流動資産の残高は25,458百万円となり、前連結会計年度末と比べ2,363百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の増加1,944百万円によるものであります。

固定資産

当連結会計年度末における固定資産の残高は10,740百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円増加いたしました。

流動負債

当連結会計年度末における流動負債の残高は6,287百万円となり、前連結会計年度末に比べ272百万円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少501百万円および預り金の増加116百万円によるものであります。

固定負債

当連結会計年度末における固定負債の残高は1,446百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円減少いたしました。

純資産

当連結会計年度末における純資産合計は28,463百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,667百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金の増加2,543百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

「経営成績等の状況の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

5 【経営上の重要な契約等】

(共通支配下の取引等)

当社は、2023年3月3日開催の取締役会において、連結子会社であるWDB臨床研究株式会社の全株式を、同じく連結子会社であるWDBココ株式会社に譲渡することを決議し、2023年3月31日付で、譲渡を実施いたしました。なお、詳細につきましては「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項 企業結合等関係」をご参照ください。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資は、総額384百万円の設備投資（敷金及び保証金を含む）を実施致しました。有形固定資産及び無形固定資産への設備投資の総額は334百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 全社資産

当連結会計年度の主な設備投資は、事業拠点用の建物等で総額180百万円の投資を実施しました。

(2) 人材サービス事業

当連結会計年度の主な設備投資は、事業所移転等に伴う建物附属設備等で総額64百万円の投資を実施しました。

(3) CRO事業

当連結会計年度の主な設備投資は、ソフトウェア等で総額89百万円の投資を実施しました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

2023年3月31日現在

事業所名・地域 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本店 (兵庫県姫路市) 他1ヶ所	全社資産	本社設備	658,977	16,927	6,517,192 (2,545)	-	10,600	7,203,698	11 (4)
西日本倉庫 (兵庫県たつの市)	全社資産	倉庫設備	12,982	4	11,775 (2,033)	-	-	24,761	- (-)
神戸基盤研究所 (神戸市中央区)	人材サー ビス事業	研修設備	341,641	2,161	155,995 (3,309)	-	-	499,798	- (-)
六甲研修所 (神戸市灘区) 他2ヶ所	全社資産	研修保養設備	55,563	113	102,451 (13,033)	-	-	169,387	- (-)

(注) 1. 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、主にソフトウェアであります。

3. 従業員数は就業人員であり、()内に平均臨時雇用者数(時間給のフレックス社員及びパートタイマーを含みます。)を外書きしております。

(2) 国内子会社

2023年3月31日現在

会社名	セグメントの名称	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
WDB株式会社	人材サー ビス事業	本社他95支店 (東京都千代田区)	営業所 設備	142,375	-	44,153	-	31,566	8,112	226,207	4,206 (441)
WDBココ 株式会社	CRO 事業	本社他2拠点 (東京都中央区)	営業所 設備	48,170	-	35,393	-	21,992	245	105,801	475 (64)

(注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、主にソフトウェアであります。

3. 従業員数は就業人員であり、()内に平均臨時雇用者数(時間給のフレックス社員及びパートタイマーを含みます。)を外書きしております。

(3) 在外子会社

2022年12月31日現在

会社名	セグメントの名称	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
Oy Medfiles Ltd.	CRO 事業	本社他5拠点 (フィンランド他)	分析 設備	386	150,786	-	-	-	24,464	175,636	173 (3)

(注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、主にソフトウェアであります。

3. 従業員数は就業人員であり、()内に平均臨時雇用者数(時間給のフレックス社員及びパートタイマーを含みます。)を外書きしております。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設

会社名	設備の名称 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
提出会社	神戸三宮ビル (兵庫県神戸市)	-	建物等	7,106	174	自己資金	2023年 2月	2025年 7月

(2) 重要な設備の除却、売却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,240,000
計	80,240,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2023年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年6月26日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	20,060,000	20,060,000	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株 であります。
計	20,060,000	20,060,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2015年1月1日 (注)	10,030,000	20,060,000	-	1,000,000	-	52,525

(注) 2015年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。株式分割後の発行済株式数は、10,030,000株増加し、20,060,000株となっております。

(5)【所有者別状況】

2023年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	14	18	41	133	23	6,846	7,075	-
所有株式数(単元)	-	27,853	1,914	96,785	35,595	33	38,374	200,554	4,600
所有株式数の割合 (%)	-	13.89	0.95	48.26	17.75	0.02	19.13	100.00	-

(注) 自己株式420,949株は、「個人その他」に4,209単元、「単元未満株式の状況」に49株含まれております。

(6)【大株主の状況】

2023年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
中野商店株式会社	兵庫県芦屋市六麓荘町11-1	9,659,600	49.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	990,400	5.04
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OMO2(常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	P.O.BOX 1631 BOSTON, MASSACHUSETTS02105-1631, USA(東京都中央区日本橋3丁目11-1)	860,995	4.38
特定有価証券信託受託者 株式会社S M B C 信託銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-2	675,100	3.44
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)(常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A.(東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	657,459	3.35
中野 敏光	兵庫県西宮市	600,000	3.06
大塚 美樹	兵庫県姫路市	480,000	2.44
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	462,400	2.35
日本生命保険相互会社(常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号(東京都港区浜松町2丁目11番3号)	400,000	2.04
THE BANK OF NEW YORK 133652(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	BOULEVARD ANSPACH 1, 1000 BRUSSELS, BELGIUM(東京都港区港南2丁目15-1)	333,400	1.70
計	-	15,119,354	76.98

(注)1. 上記のほか、当社が保有している自己株式が420,949株あります。

2. 2023年3月31日現在における、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、株式会社日本カストディ銀行(信託口)の信託業務に係る株式数は、当社として把握することができないため記載しておりません。
3. 2022年11月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、Mawer Investment Management Ltd. が2022年11月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2023年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者	Mawer Investment Management Ltd.
住所	517 - 10th Avenue S.W., Suite 600, Calgary, Alberta T2R 0A8 Canada
保有株券等の数	株式 1,118,700株
株券等保有割合	5.58%

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 420,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,634,500	196,345	-
単元未満株式	普通株式 4,600	-	-
発行済株式総数	20,060,000	-	-
総株主の議決権	-	196,345	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式49株が含まれています。

【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) WDBホールディングス株式会社	兵庫県姫路市豊沢町 79番地	420,900	-	420,900	2.10
計	-	420,900	-	420,900	2.10

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2022年11月11日)での決議状況 (取得期間 2022年11月14日)	100,000	300,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	100,000	258,300
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	41,700
当事業年度末日現在の未行使割合(%)	-	13.9
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	13.9

(注) 上記の取得自己株式は、2022年11月11日開催の取締役会において、会社法第163条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による取得であります。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	83	199
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2023年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買い取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	420,949	-	420,949	-

- (注) 1. 当期間における処理自己株式数には、2023年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。
2. 当期間における保有自己株式数には、2023年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への長期的利益還元を経営の重要な課題の一つと位置付けており、利益水準、業績見通し等を踏まえ、安定的かつ継続的な利益還元を実施していくことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当が取締役会、期末配当が株主総会であります。なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

2023年3月期の配当につきましては、上記の基本方針のもと、1株当たり普通配当51.5円(うち中間配当金20.5円)の配当を実施することを決定致しました。

内部留保資金につきましては、今後も予想される経営環境の変化に対応すべく、システム開発、人材採用、社員教育、新規事業、海外事業などに有効投資してまいりたいと考えております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2022年11月11日 取締役会決議	404,651	20.5
2023年6月22日 定時株主総会決議	608,810	31.0

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、高度な情報力と専門性をもった集団として、戦略的な意思決定を行い経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築し、グループ各社の経営管理を強化するとともに、企業として継続的な発展を図り、株主をはじめ社外に対して迅速で正確な情報発信を行うことにより、社会から信頼される会社となることとあります。また、監査体制の充実を図り、コーポレート・ガバナンスを強化することを経営上の重要な課題の一つと認識しており、経営の透明性と情報管理体制の強化及び法令遵守の徹底等を推進しております。

企業統治の体制および当該体制を採用する理由

当社グループにおける企業統治の体制は、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築しております。企業として継続的な発展を図り、株主をはじめ社外に対して迅速で正確な情報発信を行うことにより、社会から信頼される会社となることを目指しております。

当社の取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名（うち社外取締役2名）及び監査等委員である取締役3名（うち社外取締役2名）で構成されており、原則として毎月1回開催するほか、機動的に意思決定を行うため、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会は独立性を保持した監査等委員出席のもと、当社の業務執行に関する重要事項を決定するとともに、取締役の業務執行状況を監督する体制をとっております。取締役会において具体的には、経営戦略、決算・財務関連、リスクマネジメント・内部統制関連、その他個別案件を検討しております。

当社の監査等委員会は、取締役3名（うち社外取締役2名）で構成されており、取締役会への参加を通して、取締役の職務の執行を厳正に監督しております。また、監査等委員は、監査等委員会にて定めた監査計画に基づき監査を行い、内部監査室とも原則毎月意見、情報交換を行っております。また、会計監査人である監査法人と、第1四半期から第3四半期の四半期ごとに四半期レビュー報告会、期末には期末決算に関する会計監査報告会を開催するとともに、必要に応じて随時、協議を行っております。

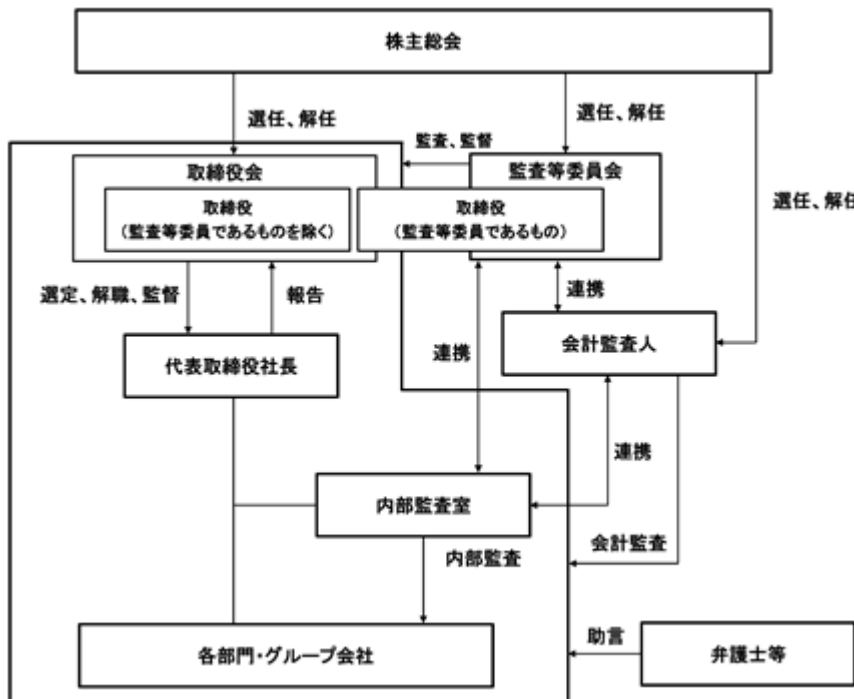
機関ごとの構成員は次のとおりであります。（ は議長、委員長を表す。）

役職名	氏名	取締役会	監査等委員会
代表取締役社長	中野 敏光		
専務取締役	大塚 美樹		
常務取締役	近藤 修司		
取締役（常勤監査等委員）	鶴飼 茂一		
社外取締役	黒田 清行		
社外取締役	木村 裕史		
社外取締役（監査等委員）	濱田 聡		
社外取締役（監査等委員）	有田 知徳		

また、当事業年度において、当社は取締役会を14回開催しており、個々の取締役の出席状況は次のとおりであります。

役職名	氏名	取締役会開催回数	取締役会出席回数
代表取締役社長	中野 敏光	14	14
専務取締役	大塚 美樹		14
取締役	中岡 欣也		14
取締役（常勤監査等委員）	鶴飼 茂一		14
社外取締役	黒田 清行		13
社外取締役	木村 裕史		13
社外取締役（監査等委員）	濱田 聡		14
社外取締役（監査等委員）	有田 知徳		13

当社の機関・内部統制の関係は、以下のとおりであります（提出日現在）。



企業統治に関するその他の事項

当社の内部統制システムとして、経営環境に応じた迅速な意思決定と業務執行の効率化を図るとともに、情報の共有と積極的な意見交換を行い、取締役会に付議する事項の検討や各部門・各子会社の月次の業務推進状況の把握、営業戦略上の施策の協議・検討を目的とした会議を定例的に開催しております。

当社のリスク管理体制は、取締役会がリスク管理に関する統制方針、体制に関する重要事項に関する審議を行い、リスク管理規程を定めるとともに、取締役会の決議事項及びリスク管理規程に基づき、コンプライアンス・リスク管理委員会においてリスク管理体制の構築及び運用の推進を図る体制を採っております。また、経営戦略遂行における法務的なリスクや業務執行におけるコンプライアンスに係る事象に関しては、社会保険労務士や社外取締役の弁護士等により適宜専門分野に関するアドバイスを受けております。

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

当社は、定款において、会社法第427条第1項の規定により、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定めており、当社と同規定に基づき損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項各号の合計額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は当社グループに所属する役員および管理職従業員等であり、被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により被保険者の過誤、義務違反、不作為等を理由に提起された損害賠償請求等により被保険者が被る損害を填補することとしております。ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、被保険者の故意による背信行為、犯罪行為もしくは詐欺行為または故意による法令違反等に起因して損害賠償請求等が提起された場合には填補の対象としないこととしております。

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の定数は9名以内、監査等委員である取締役の定数は4名以内とする旨を定款に定めております。

当社は、定款により取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定めております。

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

当社は人材サービス関連事業を行っているため、登録スタッフ及び職業紹介希望者の個人情報を有しております。当社グループは個人情報を取り扱う事業者の責務として、個人情報の適正管理の重要性を強く認識し、これら個人情報保護と派遣先企業、派遣労働者からの信頼の向上のため、個人情報保護関連規程をはじめとするコンプライアンスプログラムを作成・運用し、2001年9月に財団法人日本情報処理開発協会（現 一般財団法人日本情報経済社会推進協会）より「プライバシーマーク」付与の認定をWDB株式会社が取得しております。

また、当社の子会社の業務の適正を確保するため、子会社の取締役等の職務の執行に係る事項については、毎月開催の取締役会又は子会社会議あるいは当社業務執行取締役、全子会社の取締役、執行役員、支店責任者等が出席する会議を開催し、重要事項の審議、決定、報告を行っております。

子会社の損失の危険の管理について、当社が設置するコンプライアンス・リスク管理委員会は、子会社の業務について、取締役会の決議事項及びリスク管理規程に基づき、リスク管理体制の構築及び運用の推進を図っております。

子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、当社は、持株会社として子会社がその事業特性に応じた効率的な事業運営が行われるよう、経営管理、統括を行っております。

子会社の業務執行の適正については、関係会社管理規程に従い管理し、内部監査室が内部監査規程等に準じ、監査等を行っております。子会社の取締役及び使用人が、子会社の事業活動に法令違反の疑義のある行為や企業集団に損害を及ぼすような事実を発見した場合、社内通報制度に基づき、コンプライアンス相談窓口に通報する体制を整備しております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 7名 女性 1名 (役員のうち女性の比率12.5%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	中野 敏光	1956年7月11日	1982年8月 アリコジャパン(現 メットライフ生命 保険㈱)入社 1985年7月 ㈱ワークデーターバンク(現 WDB ホールディングス㈱)設立 代表取締役 社長(現任) 2010年4月 事業承継パートナーズ㈱(現 WDB事 業承継パートナーズ㈱)代表取締役 2011年4月 ㈱アイ・シー・オー(現 WDBココ ㈱)取締役(現任) 2011年11月 WDB㈱ 代表取締役(現任) 2012年12月 WDB工学㈱ 代表取締役 2013年3月 電助システムズ㈱(現 WDBココ㈱) 取締役 2014年4月 ㈱カケンジェネックス 取締役 2014年11月 WDB工学㈱ 取締役(現任) 2015年6月 WDB独歩㈱ 取締役(現任) 2016年4月 WDBケミカルラボラトリー㈱ 取締役 2017年2月 ネット㈱ 代表取締役(現任) 2020年6月 WDB事業承継パートナーズ㈱ 代表取 締役会長(現任)	(注)2	600,000
専務取締役	大塚 美樹	1964年1月16日	1986年4月 奥内ビル㈱ 入社 1986年9月 当社 入社 1995年11月 社会保険労務士 登録 1996年10月 当社 取締役 2000年7月 当社 専務取締役(現任) 2009年9月 神戸大学大学院 経営学研究科 修了 2010年4月 事業承継パートナーズ㈱(現 WDB事 業承継パートナーズ㈱)取締役(現任) 2011年4月 ㈱アイ・シー・オー(現 WDBココ ㈱) 代表取締役 2011年11月 WDB㈱ 専務取締役(現任) 2012年12月 WDB工学㈱ 取締役(現任) 2013年3月 電助システムズ㈱(現 WDBココ㈱) 代 表取締役 2014年4月 WDBユニバーシティ㈱ 代表取締役 2015年6月 WDB独歩㈱ 代表取締役(現任) 2017年2月 ネット㈱ 取締役(現任) 2017年3月 Oy Medfiles Ltd. Chairman(現任) 2017年6月 ㈱コーブリッジ 代表取締役(現任) 2020年6月 WDB臨床研究㈱(現 WDBココ㈱) 取締役 2020年6月 WDBケミカルラボラトリー㈱ 取締役 2020年6月 ㈱カケンジェネックス 取締役	(注)2	480,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常務取締役	近藤 修司	1969年9月10日	1992年4月 オムロン(株) 入社 1995年4月 尚和化工(株) (現 ショーワグローブ(株)) 入社 2000年7月 SHOWA Europe President 2009年6月 ショーワグローブ(株) 取締役 国際事業部長 2013年1月 ショーワグローブ(株) 取締役 管理本部長 兼 国際事業部長 2015年1月 SHOWA Americas & Oceania President/COO 2015年3月 ショーワグローブ(株) 常務取締役 2017年3月 ショーワグローブ(株) 代表取締役社長 2023年4月 当社 顧問 2023年6月 当社 常務取締役 (現任)	(注) 2	-
取締役	黒田 清行	1970年1月12日	1996年4月 弁護士登録 2002年5月 弁護士法人三宅法律事務所 パートナー 2005年11月 当社社外監査役 2009年6月 当社社外取締役 (現任) 2018年6月 (株)不動産テトラ 社外取締役 (監査等委員) (現任) 2019年5月 弁護士法人三宅法律事務所 代表社員 (現任)	(注) 2	1,399
取締役	木村 裕史	1963年9月5日	2003年10月 弁護士登録 2005年7月 木村法律事務所開設 木村法律事務所所 長 (現任) 2009年6月 当社 社外監査役 2012年6月 当社 社外取締役 (現任) 2014年6月 フジプレアム(株) 社外取締役 (現任) 2017年6月 播陽証券(株) 社外監査役 (現任)	(注) 2	1,589
取締役 (常勤監査等委員)	鵜飼 茂一	1949年11月20日	1972年4月 姫路信用金庫 入社 2001年12月 税理士登録 2006年6月 (株)姫信不動産サービス 代表取締役 2007年1月 当社入社 経営企画室監査部長 2007年6月 当社 常勤監査役 2010年4月 事業承継パートナーズ(株) (現 WDB事 業承継パートナーズ(株)) 監査役 (現任) 2011年4月 (株)アイ・シー・オー (現 WDBココ (株)) 監査役 2011年6月 WDB独歩(株) 監査役 (現任) 2011年11月 WDB(株) 監査役 (現任) 2012年4月 WDBユニバーシティ(株) 監査役 2012年12月 WDB工学(株) 監査役 (現任) 2013年3月 電助システムズ(株) (現 WDBココ(株)) 監査役 2014年4月 (株)カケンジェネックス 監査役 2016年4月 WDBケミカルラボラトリー(株) 監査役 2017年2月 (株)ネゾット 監査役 (現任) 2017年6月 (株)コーブリッジ 監査役 (現任) 2018年6月 当社 取締役 (常勤監査等委員) (現 任)	(注) 3	10,589

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員)	濱田 聡	1952年10月3日	1984年9月 公認会計士 濱田聡経営会計事務所開設 所長(現任) 1994年5月 ㈱西松屋チェーン 社外監査役 2005年6月 当社社外監査役 2014年9月 ハマダ税理士法人設立 代表社員(現任) 2015年6月 グローリー㈱ 社外監査役 2016年5月 ㈱西松屋チェーン 社外取締役 2018年6月 当社社外取締役(監査等委員)(現任) 2020年6月 グローリー㈱ 社外取締役(監査等委員)(現任) 2021年5月 ㈱西松屋チェーン 社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	5,439
取締役 (監査等委員)	有田 知徳	1948年2月1日	2005年9月 最高検察庁公安部長 2009年1月 福岡高等検察庁検事長 2010年4月 第一東京弁護士会弁護士登録 2010年6月 ㈱ゆうちょ銀行 社外取締役、指名委員会委員、監査委員会委員長 2011年6月 当社社外監査役 2015年6月 ブラザー工業㈱ 社外監査役 2016年6月 福山通運㈱ 社外取締役 2018年6月 当社社外取締役(監査等委員)(現任) 2019年12月 長谷川香料㈱ 社外監査役(現任)	(注)3	1,589
計					1,100,605

- (注) 1. 取締役黒田清行、木村裕史、濱田聡、有田知徳は、社外取締役であります。
2. 2023年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 2022年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
- 委員長 鶴飼茂一 委員 濱田聡 委員 有田知徳
5. 所有株式数は、WDBホールディングス役員持株会における持分を含めた実質持株数を記載しております。

社外役員の状況

当社は、社外取締役を4名選任しており、そのうち2名が監査等委員であります。

社外取締役の黒田清行並びに木村裕史は弁護士であり、監査等委員である社外取締役の濱田聡は公認会計士、同じく監査等委員である社外取締役の有田知徳は弁護士であり、弁護士や公認会計士という立場から法律や会計の専門家として、公正かつ客観的な視点で、法令や定款の遵守並びに財務、会計等の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

当社と社外取締役との間に人的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。また、社外取締役は、当社の株主ではあるものの、当社の関係会社、当社の主要な取引先の出身者等ではありません。当社株式の保有状況につきましては「役員一覧」の「所有株式数」欄に記載のとおりであります。

当社においては、社外取締役を選任するための独立性に関する基準または方針は定めておりませんが、株式会社東京証券取引所が開示を求める社外役員に関する事項を参考に、一般株主と利益相反の生じるおそれがない者を選任しており、社外取締役の黒田清行、木村裕史及び監査等委員である社外取締役の濱田聡、有田知徳は取引所に独立役員として届出をしております。

社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役(監査等委員である取締役を除く。)から会社法に基づく計算書類等の監査について問い合わせがあった場合は、監査等委員、内部監査室長及び会計監査人が個別に面談し、これに回答を行っております。

社外取締役から経営上の課題・内部統制の構築運営状況等について問い合わせがあった場合は、監査等委員、内部監査室長及び担当取締役が個別に面談し、これに回答を行っております。

(3)【監査の状況】

監査等委員監査の状況

a. 組織、人員体制について

当社の監査等委員会は、監査等委員である社外取締役2名を含む3名で構成されております。常勤監査等委員の鶴飼茂一は、税理士資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査等委員である社外取締役の濱田聡は、公認会計士であり、財務及び会計に関する高度な知見を有しております。同じく監査等委員である社外取締役の有田知徳は、弁護士資格を有しており、法律に関する高度な知見を有しております。

b. 監査等委員会の活動状況

監査等委員会は、原則として毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時監査等委員会を開催し、監査等委員間の連携を強化するとともに、監査等委員会監査の実効性を高める体制をとっております。当連結会計年度では、監査等委員会を合計12回開催し、1回あたりの所要時間は30分でした。監査等委員3名の出席率は、鶴飼茂一および濱田聡が100%、有田知徳が92%（12回中11回参加）でした。監査等委員会を通じ、以下のような決議、報告などがなされました。

決議事項：監査等委員会の監査の方針・計画等、会計監査人の評価および再任、会計監査人の報酬額の同意、監査報告の作成の承認等

報告事項：自らの職務の執行状況の結果、会計監査人による四半期決算レビュー結果、内部監査室の監査計画および内部監査の結果、グループ経営会議等の決議内容の報告等

c. 監査等委員の主な活動

- ・取締役会への出席：重要な意思決定の過程、職務の執行状況の把握および意見の表明（全監査等委員）
- ・経営会議への出席：重要な意思決定の過程、職務の執行状況の把握および意見の表明（常勤監査等委員）
- ・重要書類の監査：取締役の意思決定、業務執行に係わる稟議書等の決裁書類の閲覧および聴取（常勤監査等委員）
- ・主要部門の往査：各部門の業務執行状況および社内規程、法令等の遵守状況などの調査確認（常勤監査等委員）
- ・会計監査人の評価：会計監査人の監査計画、レビュー報告、監査報告結果から監査の方法の相当性を判断（全監査等委員）
- ・会計監査：会計監査人からの監査計画説明、四半期監査結果の報告、会計監査人の評価（全監査等委員）

内部監査の状況

当社の内部監査の組織は、チェック機能の強化を図るため社長直轄組織である内部監査室に内部監査担当者1名を配置し、必要に応じて補助者を選任し、各部門・支店に対して社内規程・法令等の遵守状況を実査又は書面監査により実施しております。

監査等委員会及び内部監査室は、相互に連携を図り、効果的かつ効率的な監査が実施できるよう、監査計画の共有、意見交換、指摘事項及び改善状況の共有に努めるとともに、必要に応じて同行による実査を行い、相互協力と牽制を図っております。

また、内部監査担当者は、原則として毎月1回開催される監査等委員会に出席し、内部監査の状況を直接報告しております。

会計監査人の監査計画及び四半期決算・期末決算に関わるレビュー、監査結果については、監査等委員会が直接、会計監査人からその説明を受けております。

内部統制の整備と運用状況については、内部監査室長から会計監査人に報告があり、さらに担当取締役が取締役会において監査等委員を含む取締役及び社外取締役に報告しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

b. 継続監査期間

19年

c. 業務を執行した公認会計士

目細 実（継続監査年数：5年）

村上 育史（継続監査年数：3年）

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他16名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、財務報告の適正を確保するため、監査法人の選定にあたり、取締役、経営企画部及び会計監査人から必要な資料を入手し、かつ報告を受け、会計監査人の職務執行状況、監査体制、独立性及び専門性などが適切であるかについて毎期検討しております。

f. 監査等委員及び監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、経営企画部及び内部監査室並びに監査法人から独立性・監査体制・監査の実施状況や品質等に関する情報を収集した結果、監査法人の監査の方法と結果を相当と認めております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

監査公認会計士等に対する報酬の内容は、以下のとおりであります。

なお、監査報酬の金額については、会計監査人からの監査計画、監査内容、監査日程等を考慮のうえ、監査等委員会による同意を得て、適切に決定しております。

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	32,000	-	37,100	-
連結子会社	18,000	5,180	21,100	-
計	50,000	5,180	58,200	-

前連結会計年度の連結子会社における非監査業務の内容は、主に内部統制報告制度対応に関する助言・指導業務であります。

また、当連結会計年度における上記報酬以外に、前連結会計年度に係る追加報酬が3,000千円あります。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク（デロイト トーマツ）に対する報酬（a.を除く）

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としては、会計監査人からの監査計画、監査内容、監査日程等を考慮のうえ、監査等委員会による同意を得て、適切に決定しております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の報酬の前提となっている監査計画の方針・内容・見積りの算出根拠等を確認し、当該内容について社内関係部署から必要な報告を受け、検証した結果、当社の会計監査を実施するうえでいずれも妥当なものであると判断したため、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、2021年2月5日開催の取締役会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。以下、「取締役」という。）の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法および決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿ったものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容は次の通りです。

当社の取締役の基本報酬は、月例の固定報酬と退職慰労金とし、他社水準、当社の業績、従業員給与の水準を考慮し、経営能力、功績、貢献度などに応じて決定しております。

経営幹部の報酬については、会社業績や経済情勢等を勘案したうえで、職責と成果を反映させた体系としております。

監査等委員でない取締役の報酬については、上記方針に基づき代表取締役が原案を策定し、取締役会で決定しております。

監査等委員である取締役の報酬については、監査等委員である取締役の協議により、具体的な金額を決定しております。

取締役（監査等委員を除く）の報酬限度額は、年額250百万円以内（うち社外取締役分50百万円以内）（ただし、使用人分給与は含まない。）です（2018年6月21日決議）。当該株主総会終結時点の取締役（監査等委員を除く）の員数は、5名（うち、社外取締役は2名）です。

また、取締役（監査等委員）の報酬限度額は、年額50百万円以内です（2018年6月21日決議）。当該株主総会終結時点の取締役（監査等委員）の員数は、3名（うち、社外取締役は2名）です。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数(名)
		固定報酬	業績連動報酬	役員退職慰労引当金	
取締役 (監査等委員及び社外取締役を除く。)	124,453	101,751	-	22,702	3
監査等委員 (社外取締役を除く。)	11,951	10,470	-	1,480	1
社外役員	25,202	25,202	-	-	4

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

金額に重要性がないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準および考え方

当社では、売買を通じて利益を得ることを目的として保有する投資株式を純投資目的、それ以外の目的で保有する投資株式を純投資目的以外の株式と区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、重要な取引先・パートナーとして、保有先の企業価値向上並びに当社の中長期的な企業価値の向上の観点より有益と判断する株式について、戦略的に保有することといたします。保有株式の定期的な見直しについては、個別に判断いたします。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	3	1,737
非上場株式以外の株式	2	103,448

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)
該当する銘柄はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)
該当する銘柄はありません。

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
神姫バス(株)	20,000	20,000	主に地域のインフラ基盤に寄与するため	無
	69,600	65,000		
(株)ニチリン	14,300	14,300	主に人材派遣サービスの取引を行っており、同社との良好な取引関係の維持強化を図るため保有しております。	無
	33,848	22,136		

(注) 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は個別に検証しています。

みなし保有株式

該当する投資株式はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	4	3,854	4	2,470

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	50	-	1,313

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、専門誌の定期購読や監査法人等が行うセミナーに参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,426,445	18,370,835
売掛金及び契約資産	1 6,045,337	1 6,442,248
棚卸資産	2 38,094	2 40,790
その他	585,117	684,493
貸倒引当金	-	79,903
流動資産合計	23,094,995	25,458,464
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,729,727	2,741,656
減価償却累計額	1,240,524	1,329,779
建物及び構築物(純額)	1,489,203	1,411,876
機械装置及び運搬具	284,121	360,959
減価償却累計額	165,518	207,949
機械装置及び運搬具(純額)	118,603	153,010
工具、器具及び備品	550,384	562,770
減価償却累計額	427,686	449,734
工具、器具及び備品(純額)	122,698	113,036
土地	6,798,672	6,787,415
リース資産	208,722	193,774
減価償却累計額	142,467	140,215
リース資産(純額)	66,255	53,559
建設仮勘定	3,125	174,022
有形固定資産合計	8,598,558	8,692,920
無形固定資産		
のれん	95,610	-
その他	63,015	73,859
無形固定資産合計	158,626	73,859
投資その他の資産		
投資有価証券	91,343	109,039
敷金及び保証金	779,735	808,149
繰延税金資産	819,007	755,777
その他	286,204	300,554
投資その他の資産合計	1,976,291	1,973,521
固定資産合計	10,733,476	10,740,301
資産合計	33,828,472	36,198,765

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,239,785	2,318,746
未払金	357,265	382,062
未払法人税等	1,238,007	736,039
未払消費税等	857,341	881,052
賞与引当金	700,325	703,134
その他	3 1,167,653	3 1,266,825
流動負債合計	6,560,379	6,287,860
固定負債		
役員退職慰労引当金	486,950	511,133
退職給付に係る負債	493,321	420,547
資産除去債務	268,673	265,167
その他	222,720	250,093
固定負債合計	1,471,665	1,446,941
負債合計	8,032,044	7,734,802
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	669,833	710,799
利益剰余金	24,505,499	27,049,315
自己株式	1,018,690	1,277,189
株主資本合計	25,156,642	27,482,924
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,693	27,977
為替換算調整勘定	24,654	92,771
退職給付に係る調整累計額	83,870	3,722
その他の包括利益累計額合計	43,522	124,472
非支配株主持分	683,307	856,566
純資産合計	25,796,427	28,463,963
負債純資産合計	33,828,472	36,198,765

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1 46,875,964	1 47,602,446
売上原価	34,383,720	35,667,759
売上総利益	12,492,243	11,934,687
販売費及び一般管理費	2 6,178,005	2 6,426,638
営業利益	6,314,238	5,508,049
営業外収益		
助成金収入	13,559	92,872
消費税等免税益	51,224	1,802
受取保険金	441	1,461
その他	18,335	17,210
営業外収益合計	83,561	113,347
営業外費用		
為替差損	-	4,571
その他	4,340	1,982
営業外費用合計	4,340	6,554
経常利益	6,393,458	5,614,843
特別利益		
固定資産売却益	3 217	3 3,569
子会社株式売却益	35,411	-
特別利益合計	35,629	3,569
特別損失		
減損損失	-	4 59,785
固定資産除却損	5 12,061	5 4,556
その他	-	6 5,720
特別損失合計	12,061	70,062
税金等調整前当期純利益	6,417,026	5,548,350
法人税、住民税及び事業税	2,146,694	1,745,141
法人税等調整額	102,537	25,663
法人税等合計	2,044,156	1,770,805
当期純利益	4,372,870	3,777,545
非支配株主に帰属する当期純利益	201,597	236,904
親会社株主に帰属する当期純利益	4,171,272	3,540,641

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益	4,372,870	3,777,545
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,725	12,284
為替換算調整勘定	34,254	68,117
退職給付に係る調整額	68,771	88,747
その他の包括利益合計	1 36,242	1 169,149
包括利益	4,336,627	3,946,694
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,136,243	3,708,636
非支配株主に係る包括利益	200,384	238,058

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,000,000	677,179	21,163,271	1,018,598	21,821,851
当期変動額					
剰余金の配当			829,044		829,044
親会社株主に帰属する当期純利益			4,171,272		4,171,272
連結子会社の自己株式の取得による持分の増減		55			55
連結子会社の増資による持分の増減		7,290			7,290
自己株式の取得				91	91
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	7,346	3,342,228	91	3,334,791
当期末残高	1,000,000	669,833	24,505,499	1,018,690	25,156,642

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	17,418	9,599	16,312	8,493	489,211	22,302,570
当期変動額						
剰余金の配当						829,044
親会社株主に帰属する当期純利益						4,171,272
連結子会社の自己株式の取得による持分の増減						55
連結子会社の増資による持分の増減						7,290
自己株式の取得						91
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,725	34,254	67,558	35,029	194,096	159,066
当期変動額合計	1,725	34,254	67,558	35,029	194,096	3,493,857
当期末残高	15,693	24,654	83,870	43,522	683,307	25,796,427

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,000,000	669,833	24,505,499	1,018,690	25,156,642
当期変動額					
剰余金の配当			996,825		996,825
親会社株主に帰属する当期純利益			3,540,641		3,540,641
連結子会社の増資による持分の増減		6,142			6,142
組織再編による増減		47,108			47,108
自己株式の取得				258,499	258,499
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	40,965	2,543,815	258,499	2,326,281
当期末残高	1,000,000	710,799	27,049,315	1,277,189	27,482,924

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	15,693	24,654	83,870	43,522	683,307	25,796,427
当期変動額						
剰余金の配当						996,825
親会社株主に帰属する当期純利益						3,540,641
連結子会社の増資による持分の増減						6,142
組織再編による増減						47,108
自己株式の取得						258,499
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	12,284	68,117	87,593	167,994	173,259	341,254
当期変動額合計	12,284	68,117	87,593	167,994	173,259	2,667,535
当期末残高	27,977	92,771	3,722	124,472	856,566	28,463,963

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,417,026	5,548,350
減価償却費	219,027	230,052
のれん償却額	112,123	42,253
減損損失	-	59,785
貸倒引当金の増減額(は減少)	242	79,903
賞与引当金の増減額(は減少)	22,497	2,809
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	23,975	24,182
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	73,993	55,139
受取利息及び受取配当金	2,232	3,109
支払利息	378	314
保険解約返戻金	4,975	-
子会社株式売却損益(は益)	35,411	-
有形固定資産売却損益(は益)	217	2,150
有形固定資産除却損	12,061	4,556
売上債権の増減額(は増加)	160,537	311,010
棚卸資産の増減額(は増加)	19,521	82
その他の流動資産の増減額(は増加)	297,118	21,177
仕入債務の増減額(は減少)	8,886	68,315
未払金の増減額(は減少)	244,935	11,143
未払消費税等の増減額(は減少)	228,983	17,557
その他の流動負債の増減額(は減少)	42,254	81,484
その他	9,045	22,354
小計	6,244,444	5,915,137
利息及び配当金の受取額	2,232	3,109
利息の支払額	378	314
法人税等の支払額	2,220,489	2,364,535
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,025,808	3,553,397
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	47,244	-
有形固定資産の取得による支出	6,240,303	275,989
有形固定資産の売却による収入	1,739	11,533
無形固定資産の取得による支出	26,810	29,754
資産除去債務履行による支出	15,629	2,048
敷金の差入による支出	74,548	50,035
敷金の回収による収入	13,392	22,557
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	178,364	-
保険積立金の払戻による収入	10,470	-
その他	2,069	14,252
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,104,010	337,989

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	28,378	31,873
配当金の支払額	828,894	996,409
非支配株主への配当金の支払額	25,709	30,447
連結子会社増資に伴う非支配株主からの払込による収入	12,495	6,615
自己株式の取得による支出	91	258,499
子会社の自己株式の取得による支出	348	-
その他	-	2,847
財務活動によるキャッシュ・フロー	870,926	1,307,767
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,052	36,748
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,934,076	1,944,389
現金及び現金同等物の期首残高	19,360,521	16,426,445
現金及び現金同等物の期末残高	1 16,426,445	1 18,370,835

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

(1) 連結子会社の数 16社

主要な連結子会社の名称

W D B株式会社、W D B工学株式会社、W D Bココ株式会社、WDB臨床研究株式会社、Oy Medfiles Ltd.、株式会社コーブリッジ、DZS Clinical Services, Inc.、ネゾット株式会社

なお、当連結会計年度において、連結子会社であるW D B臨床研究株式会社の全株式を、同じく連結子会社であるW D Bココ株式会社に譲渡しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用した関連会社数

該当事項はありません。

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちOy Medfiles Ltd.及び同社の子会社3社、DZS Clinical Services, Inc.の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

棚卸資産

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

a 製品・仕掛品

総平均法及び個別法

b 原材料

総平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。但し、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	3～50年
機械装置及び運搬具	2～10年
工具、器具及び備品	2～20年

無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく、定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生時の連結会計年度より費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは、人材派遣・人材紹介等の人材サービスに加え、医薬品等の開発業務の代行・支援を行うCROサービスを提供しております。サービスは、主に派遣契約と業務受託契約に基づいて提供しており、顧客との契約内容によって一定期間にわたり、または一時点で、契約に定められた金額に基づき収益を認識しております。

各事業における固有の状況につきましては、以下のとおりであります。

・ 人材サービス事業

人材派遣サービスに関しては、顧客に対して契約期間にわたり人材を派遣し労働を提供することを履行義務と判断しております。人材派遣サービスは、契約期間内に日常的、反復的に行われるものであり、顧客との契約を履行するにつれて、顧客は便益を享受するため、履行義務は一定の期間で充足されると判断し、契約上の派遣単価と提供した派遣サービス時間に基づいて収益を認識しております。

人材紹介サービスに関しては、顧客が求める人材を紹介し、紹介した人材が顧客企業に入社することを履行義務と判断しております。人材紹介サービスに対する支配は紹介した人材が顧客企業に入社した時点で移転して履行義務が充足される判断し、当該時点において契約上の金額で収益を認識しております。

・ CRO事業

CRO事業のサービスに関しては、契約に含まれる各受託業務に関連性のある一定の単位に集約したサービスを提供することを履行義務と判断しております。成果物の作成等を履行義務とするものについては、所定の成果物を納入し検収を受けた時点で契約上の金額に基づいて収益を認識しております。継続的な業務の提供を履行義務とするものについては、顧客は業務の進捗に応じて便益を享受するため、履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断し、契約内容に応じて主に提供したサービスの実績に固定単価を乗じた金額を請求する契約については契約に基づいた固定単価に実際業務数または実際業務時間を乗じた金額、契約期間にわたって一定の業務を実施する契約については契約上の金額を契約期間で按分した金額に基づき収益を認識しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(未適用の会計基準等)

- ・ 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日 企業会計基準委員会)
- ・ 「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日 企業会計基準委員会)
- ・ 「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

2018年2月に企業会計基準第28号「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等(以下「企業会計基準第28号等」)が公表され、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針の企業会計基準委員会への移管が完了されましたが、その審議の過程で、次の2つの論点について、企業会計基準第28号等の公表後に改めて検討を行うこととされていたものが、審議され、公表されたものであります。

- ・ 税金費用の計上区分(その他の包括利益に対する課税)
- ・ グループ法人税制が適用される場合の子会社株式等(子会社株式又は関連会社株式)の売却に係る税効果

(2) 適用予定日

2025年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1 売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
売掛金	5,740,461千円	6,092,636千円

2 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
仕掛品	4,551千円	2,430千円
原材料及び貯蔵品	33,543千円	38,359千円

3 流動負債のその他のうち、契約負債の金額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
契約負債	178,480千円	160,753千円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載の通りであります。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
給与	2,675,454千円	2,871,487千円
賃借料	740,649千円	730,616千円
賞与引当金繰入額	140,875千円	147,474千円
退職給付費用	129,279千円	129,501千円
役員退職慰労引当金繰入額	23,975千円	24,182千円
減価償却費	162,409千円	158,885千円
のれん償却額	112,123千円	42,253千円
貸倒引当金繰入額	-千円	79,253千円

3 固定資産売却益の内容は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
機械装置及び運搬具	217千円	3,142千円
工具、器具及び備品	-千円	427千円

4 減損損失

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

DZS Clinical Services, Inc.の業績が買収当初に見込んでいた事業計画を下回って推移していることから、当該のれんについて59,785千円の減損損失を計上しております。

5 固定資産除却損の内容は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物及び構築物	10,326千円	4,269千円
機械装置及び運搬具	10千円	-千円
工具、器具及び備品	1,624千円	287千円
ソフトウェア	99千円	-千円

6 その他の内容は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
土地売却損	-千円	5,720千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	2,485千円	17,695千円
組替調整額	-千円	-千円
税効果調整前	2,485千円	17,695千円
税効果額	760千円	5,411千円
その他有価証券評価差額金	1,725千円	12,284千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	34,254千円	68,117千円
組替調整額	-千円	-千円
税効果調整前	34,254千円	68,117千円
税効果額	-千円	-千円
為替換算調整勘定	34,254千円	68,117千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	135,788千円	116,307千円
組替調整額	36,622千円	11,606千円
税効果調整前	99,165千円	127,913千円
税効果額	30,394千円	39,165千円
退職給付に係る調整額	68,771千円	88,747千円
その他の包括利益合計	36,242千円	169,149千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	20,060,000	-	-	20,060,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	320,841	25	-	320,866

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 25株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月24日 定時株主総会	普通株式	444,131	22.50	2021年3月31日	2021年6月25日
2021年11月5日 取締役会	普通株式	384,913	19.50	2021年9月30日	2021年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	592,174	30.00	2022年3月31日	2022年6月24日

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	20,060,000	-	-	20,060,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	320,866	100,083	-	420,949

(変動事由の概要)

2022年11月11日の取締役会決議に基づく自己株式の取得 100,000株

単元未満株式の買取りによる増加 83株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	592,174	30.00	2022年3月31日	2022年6月24日
2022年11月11日 取締役会	普通株式	404,651	20.50	2022年9月30日	2022年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	608,810	31.00	2023年3月31日	2023年6月23日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
現金及び預金	16,426,445千円	18,370,835千円
現金及び現金同等物	16,426,445千円	18,370,835千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として本社におけるコンピュータ(工具、器具及び備品)であります。

(2) リース資産の減価償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しており、デリバティブ取引は利用していません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されており、投資有価証券は、主に長期保有目的の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されており、また、敷金及び保証金は、貸借先の信用リスクに晒されています。

営業債務である買掛金は、流動性リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、与信管理マニュアルに従い、営業債権については、新規取引時に与信管理を行うと同時に、個別の取引毎で支払条件等の確認を行っております。

市場リスク(金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、投資有価証券について、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、当社の経営企画部が当社並びに子会社の状況を確認し、日繰りで資金繰りを行っており、それらを基に資金計画表を作成・変更しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日において、該当事項はありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2022年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券	89,606	89,606	-
(2) 敷金及び保証金	779,735	779,632	102
資産計	869,341	869,239	102

(注) 1. 現金及び預金、売掛金及び契約資産、買掛金、未払法人税等および未払消費税等については、現金であること及び短時間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	1,737

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

区分	1年以内 (千円)
現金及び預金	16,426,445
売掛金	5,740,461
合計	22,166,907

当連結会計年度(2023年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券	107,302	107,302	-
(2) 敷金及び保証金	808,149	808,003	145
資産計	915,451	915,305	145

- (注) 1. 現金及び預金、売掛金及び契約資産、買掛金、未払法人税等および未払消費税等については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。
2. 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	1,737

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

区分	1年以内 (千円)
現金及び預金	18,370,835
売掛金	6,092,636
合計	24,463,471

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性および重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定された時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれに属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品
前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	89,606	-	-	89,606
資産計	89,606	-	-	89,606

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	107,302	-	-	107,302
資産計	107,302	-	-	107,302

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品
前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	779,632	-	779,632
資産計	-	779,632	-	779,632

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	808,003	-	808,003
資産計	-	808,003	-	808,003

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

投資有価証券は全て上場株式であり相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

敷金及び保証金

敷金及び保証金は、主として事業所の賃借先に差し入れているものであります。これらの時価は、将来の賃借期間を見積り、その期間に対応する国債利回りで割引いており、レベル2に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	88,103	65,243	22,860
小計	88,103	65,243	22,860
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	1,503	1,756	253
小計	1,503	1,756	253
合計	89,606	67,000	22,606

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額1,737千円)については、市場価格がないため、上表には含めておりませ
ん。

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	107,302	67,000	40,301
小計	107,302	67,000	40,301
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
小計	-	-	-
合計	107,302	67,000	40,301

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額1,737千円)については、市場価格がないため、上表には含めておりませ
ん。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるために、積立型、非積立型の確定給付制度および選択制確定拠出年金制度を導入しております。

確定給付企業年金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。確定拠出年金制度では、要拠出額を費用処理しております。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	627,420	827,297
勤務費用	106,914	126,394
利息費用	2,003	2,767
数理計算上の差異の発生額	135,541	116,883
退職給付の支払額	44,582	42,523
退職給付債務の期末残高	827,297	797,052

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
年金資産の期首残高	324,215	350,033
期待運用収益	4,506	5,250
数理計算上の差異の発生額	246	1,537
事業主からの拠出額	48,066	61,496
退職給付の支払額	25,205	18,199
その他	1,303	1,323
年金資産の期末残高	350,033	395,720

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	558,127	494,292
年金資産	350,033	395,720
	208,094	98,571
非積立型制度の退職給付債務	269,169	302,760
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	477,263	401,331
退職給付に係る負債	477,263	401,331
退職給付に係る資産	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	477,263	401,331

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	106,914	126,394
利息費用	2,003	2,767
期待運用収益	4,506	5,250
数理計算上の差異の費用処理額	36,622	10,645
その他	1,184	1,203
確定給付制度に係る退職給付費用	142,218	135,760

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
数理計算上の差異	99,165	126,952
合計	99,165	126,952

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
未認識数理計算上の差異	122,677	4,275
合計	122,677	4,275

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
一般勘定	100%	100%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
割引率	0.49%	0.49%
長期期待運用収益率	1.39%	1.50%

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
退職給付に係る負債の期首残高	28,990	16,057
退職給付費用	1,768	3,158
退職給付の支払額	2,668	-
その他	12,033	-
確定給付に係る負債の期末残高	16,057	19,215

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付債務に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (2023年 3月 31日)
非積立型制度の退職給付債務	16,057	19,215
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	16,057	19,215
退職給付に係る負債	16,057	19,215
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	16,057	19,215

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度1,768千円 当連結会計年度3,158千円

4. 確定拠出制度

当社の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度54,225千円、当連結会計年度62,544千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前連結会計年度 (2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (2023年 3月 31日)
賞与引当金	212,757千円	214,804千円
未払事業税	62,809千円	50,936千円
未払費用	59,068千円	53,105千円
未払事業所税	11,380千円	11,900千円
税務上の繰越欠損金(注)	251,907千円	231,915千円
退職給付に係る負債	151,070千円	129,537千円
役員退職慰労引当金	148,909千円	156,304千円
減価償却費	215,135千円	263,672千円
資産除去債務	71,328千円	84,655千円
その他	168,562千円	149,121千円
計	1,352,929千円	1,345,952千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	251,907千円	231,915千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	282,013千円	350,377千円
評価性引当額小計	533,921千円	582,292千円
繰延税金資産合計	819,007千円	763,659千円

(繰延税金負債)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
建物(資産除去債務)	57,196千円	66,680千円
その他	6,912千円	12,324千円
繰延税金負債合計	64,109千円	79,004千円
繰延税金資産純額	754,897千円	684,655千円

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金 ()	-	-	404	7,654	22,749	221,100	251,907千円
評価性引当額	-	-	404	7,654	22,749	221,100	251,907千円
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

() 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金 ()	-	404	7,164	18,747	16,903	188,695	231,915千円
評価性引当額	-	404	7,164	18,747	16,903	188,695	231,915千円
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

() 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.58%	30.58%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.10%	0.45%
住民税等均等割	1.26%	1.44%
留保金課税	0.91%	1.04%
賃上げ・投資促進税制(旧・所得拡大促進税制)特別控除	- %	2.70%
のれん償却額	0.53%	0.59%
評価性引当額	0.87%	1.81%
欠損金の控除額	1.67%	0.26%
子会社税率差異	0.08%	0.07%
その他	0.93%	0.07%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.86%	31.92%

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 結合企業の名称及び当該事業の内容

結合企業名称 : WDBココ株式会社
事業の内容 : 医薬品有害事象等の情報収集および当局への報告業務
被結合企業名称 : WDB臨床研究株式会社
事業の内容 : 医薬品・臨床研究等に関わるデータマネジメント・統計解析業務

(2) 企業結合日

2023年3月31日

(3) 企業結合の法的形式

連結範囲の変更を伴わない子会社株式の子会社への全部譲渡

(4) 結合後企業の名称

名称 : WDBココ株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループは、「埋もれた価値を発掘し、新たな価値を創造していく会社でありたい。」を経営理念とし、今は成果が出ていなくても将来的に伸びる可能性のある会社や事業、人材を見つけ出し、プラットフォームを通して仕事をする仕組みを作ることで、利便性や生産性を高め、その事業が本来持っている価値を最大限に発揮できるように、プラットフォーム、人材サービス、CRO、その他の4つの分野で既存事業の運営と新規事業の発掘育成を行っております。

WDB臨床研究株式会社(以下「WDB臨床研究」)は、当社グループのCRO事業において、「適正価格」で「プロフェッショナルサービス」を提供することにより価値のあるエビデンスを創出することで、医療の発展に貢献することを経営理念とし、「臨床研究支援サービス」として、研究事務局、モニタリング、データマネジメント、統計解析の一連の業務のワンストップサービスを、「製造販売後調査支援サービス」として、データマネジメント、統計解析の業務を提供しております。

一方、WDBココ株式会社(以下「WDBココ」)は「仕事の成果の保証」と「新しい価値の提供」を通じて、お客様の課題を解決し医療の未来に貢献することを経営理念とし、最新のテクノロジーと優れたビジネスモデルを用いて、顧客に最適な業務プロセスを提案・実施する製薬企業にとって不可欠なパートナーとして、治験・製造販売後の両段階における「安全性情報管理サービス」を軸に、製造販売後調査における契約支援業務といった「製造販売後調査支援サービス」のほか、「ドキュメントサポートサービス」、「臨床開発支援サービス」を展開しております。

今日、育薬という観点から、製造販売後調査と臨床研究をスムーズに実施することにより、医薬品の適正使用を促すためのエビデンスと効果的な治療方法を早期に確立することが、製薬企業のニーズとして高まってきております。

本株式譲渡により、WDB臨床研究とWDBココがそれぞれ展開する製造販売後調査支援サービスを、緊密・効率的に組み合わせることによって、製造販売後の段階における包括的なワンストップサービスを提供することは、当社グループのCRO事業の成長に寄与し、当社グループの総合的な企業価値の向上に資すると判断したため、当社が保有するWDB臨床研究の全株式をWDBココに譲渡することを決定いたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 非支配株主との取引に係る当社の持ち分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

連結範囲の変更を伴わない子会社株式の全部譲渡

(2) 組織再編によって増加した資本剰余金の金額

47,108千円

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

- (1) 当該資産除去債務の概要
建物賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。
- (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法
使用見込期間を10年と見積り、割引率は国債利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。
- (3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
期首残高	252,319千円	268,673千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	31,147千円	5,368千円
時の経過による調整額	687千円	698千円
資産除去債務の履行による減少額	13,075千円	2,048千円
その他	2,405千円	1,020千円
期末残高	268,673千円	273,712千円

(収益認識関係)

- 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報
顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載の通りであります。
- 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報
 - (1) 人材サービス事業
人材派遣サービスに関する取引の対価は、月次締後、概ね3カ月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。
人材紹介サービスに関する取引の対価は、契約条件に従い、履行義務を充足する前に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。
 - (2) CRO事業
CROサービスに関する取引の対価は、月次締後、概ね4カ月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	5,904,704	5,740,461
契約資産	259,633	304,876
契約負債	192,452	178,480

契約資産は、当連結会計年度末時点で履行義務が充足された対価のうち、法的な請求権がないものであります。契約資産は法的な請求権を獲得した時点で債権に振り替えられております。これは通常、サービスの提供が完了して請求書を顧客に発行した時点であり、

契約負債は、サービスの提供に対する前受金に関係するものであり、収益の認識に基づき取崩されるものであります。

当連結会計年度に認識した収益のうち、期首時点で契約負債に含まれていた額は、175,654千円であり、

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	5,740,461	6,092,636
契約資産	304,876	349,612
契約負債	178,480	160,753

契約資産は、当連結会計年度末時点で履行義務が充足された対価のうち、法的な請求権がないものであります。契約資産は法的な請求権を獲得した時点で債権に振り替えられております。これは通常、サービスの提供が完了して請求書を顧客に発行した時点であり、

契約負債は、サービスの提供に対する前受金に関係するものであり、収益の認識に基づき取崩されるものであります。

当連結会計年度に認識した収益のうち、期首時点で契約負債に含まれていた額は、177,633千円であり、

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格は概ね1年以内に収益を認識することを見込んでいるため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、研究職分野に特化した企業グループとして、人材サービス事業、CRO事業を中心に事業を展開しており、サービスの性質、サービスの提供方法の類似性を鑑み、「人材サービス事業」、「CRO事業」を報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

人材サービス事業(人材派遣・人材紹介等)

人材派遣とは、当社が当社の雇用する社員を顧客に派遣し、顧客の業務を支援するサービスであります。派遣社員は、顧客の指揮命令に従って業務を行います。本事業は、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」(以下、「労働者派遣法」といいます。)の適用を受けます。

人材派遣には、「登録型派遣」と「正社員型派遣」があります。「登録型派遣」は、当社に登録している求職者を有期雇用した上で派遣し、「正社員型派遣」は、当社が正社員として雇用している社員を派遣します。

また、人材紹介とは、当社に登録する求職者を顧客に紹介することで、顧客の採用活動を支援するサービスであります。本事業は、「職業安定法」の適用を受けます。

当社グループの人材サービス事業は、大きく以下3つの分野を扱っております。

(理学系研究職)

バイオ系(遺伝子、微生物、酵素、免疫、細胞、薬理、動物実験等)および化学系(有機合成、材料・素材、分析・解析等)の分野における専門的な能力、経験を有する人材を派遣および人材紹介しております。主な顧客は、製薬・食品・化学等の製造業における研究開発部門・品質管理部門および、公的機関・大学の研究室であります。

(工学系技術職)

金型設計、部品設計、2次元・3次元CAD、流体力学、熱力学、発電、ソフトウェア設計・開発、土木・建築等の分野における専門的な能力、経験を有する人材を派遣および人材紹介しております。主な顧客は、電気・電子・精密機械等の製造業における機械設計部門、電気・電子機器設計部門、ソフトウェア開発部門、検査部門であります。

(一般事務職)

事務用機器操作、通訳、秘書、ファイリング、経理、取引文書作成、案内受付、OAインストラクター、テレマーケティング等の経験を有する人材を、様々な業種の企業へ派遣および人材紹介しております。

CRO事業

主に医薬品メーカー、医療機器メーカーを対象とし、医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器等の開発業務の代行・支援を行っております。国内では安全性情報管理の分野を中心に事業を行っており、海外では開発業務全般を扱っております。

その他事業

主に、自動車部品の製造に使われる射出成型装置に関連した、ガスアシスト装置およびバイオ関連機器の開発・販売事業を行ってまいりました。なお、2022年2月25日を効力発生日として、当該事業を行っていた株式会社カケンジェネックスの全株式を株式会社カケン商事に譲渡しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であり、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	人材サービス 事業	CRO事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	40,247,155	6,330,145	46,577,301	298,662	46,875,964
セグメント間の内部売上高 又は振替高	70,951	-	70,951	-	70,951
計	40,318,107	6,330,145	46,648,252	298,662	46,946,915
セグメント利益	5,634,287	1,043,677	6,677,964	31,047	6,709,012
セグメント資産	19,197,198	4,754,514	23,951,712	-	23,951,712
その他の項目					
減価償却費	116,586	59,022	175,608	3,799	179,407
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	23,724	209,926	233,650	1,565	235,215

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガスインジェクション装置等やパイ
オ関連機器の開発製造事業を含んでおります。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	人材サービス 事業	CRO事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	40,855,532	6,746,914	47,602,446	47,602,446
セグメント間の内部売上高 又は振替高	42,154	-	42,154	42,154
計	40,897,686	6,746,914	47,644,600	47,644,600
セグメント利益	4,911,008	1,096,806	6,007,815	6,007,815
セグメント資産	21,044,542	4,808,713	25,853,255	25,853,255
その他の項目				
減価償却費	109,333	80,701	190,035	190,035
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	64,773	89,268	154,041	154,041

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	6,677,964	6,007,815
「その他」の区分の利益	31,047	-
全社費用(注)	394,773	499,765
連結財務諸表の営業利益	6,314,238	5,508,049

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に係る費用であります。

(単位:千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	23,951,712	25,853,255
セグメント間取引消去	15,233	13,923
全社資産(注)	9,891,993	10,359,433
連結財務諸表の資産合計	33,828,472	36,198,765

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に係る余資運用資金、本社建物等であります。

(単位:千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額(注)		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	175,608	190,035	3,799	-	39,619	40,017	219,027	230,052
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	233,650	154,041	1,565	-	6,119,435	180,648	6,354,650	334,689

(注) 減価償却費の調整額は全社資産に係る減価償却費であります。

有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、報告セグメントに帰属しない持株会社における有形固定資産及び無形固定資産の取得額であります。

5. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報
前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

			顧客との契約から 生じる収益	計
報告セグメント	人材サービス事業	人材派遣	39,599,934	40,247,155
		人材紹介	647,221	
	CRO事業	国内会社	4,064,844	6,330,145
		海外会社	2,265,301	
報告セグメント計				46,577,301
その他(注)				298,662
合計				46,875,964

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガスインジェクション装置等やパイオ関連機器の開発製造事業を含んでおります。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

			顧客との契約から 生じる収益	計
報告セグメント	人材サービス事業	人材派遣	40,227,925	40,855,532
		人材紹介	627,606	
	CRO事業	国内会社	4,562,675	6,746,914
		海外会社	2,184,239	
報告セグメント計				47,602,446
合計				47,602,446

【関連情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			合計
	人材サービス事業	CRO事業	計	
減損損失	-	59,785	59,785	59,785

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他	合計
	人材サービス事業	CRO事業	計		
当期償却額	-	112,123	112,123	-	112,123
当期末残高	-	95,610	95,610	-	95,610

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			合計
	人材サービス事業	CRO事業	計	
当期償却額	-	42,253	42,253	42,253
当期末残高	-	-	-	-

（注） 「CRO事業」セグメントにおいて、のれんの減損損失59,785千円を計上しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引
該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	1,272.25円	1,405.74円
1株当たり当期純利益	211.32円	179.75円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	4,171,272	3,540,641
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	4,171,272	3,540,641
普通株式の期中平均株式数(株)	19,739,144	19,697,715

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当連結会計年度末 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	25,796,427	28,463,963
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	683,307	856,566
(うち、非支配株主持分(千円))	(683,307)	(856,566)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	25,113,120	27,607,396
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	19,739,134	19,639,051

- (重要な後発事象)
該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	415	1.5	-
1年以内に返済予定のリース債務	29,376	27,128	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	2,500	1.5	2024年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	43,546	31,916	-	2024年～2026年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	72,923	61,961	-	-

(注) 1. リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. 借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
借入金	2,500	-	-	-
リース債務	19,343	9,931	2,641	-

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	11,860,434	23,712,855	35,734,706	47,602,446
税金等調整前四半期 (当期)純利益 (千円)	1,433,952	2,825,603	4,259,287	5,548,350
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	892,968	1,697,055	2,564,783	3,540,641
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	45.24	85.97	130.08	179.75

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	45.24	40.74	44.11	49.69

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,144,921	1,483,710
未収法人税等	318,028	432,805
その他	1,464,459	1,286,091
貸倒引当金	-	28,208
流動資産合計	1,927,408	2,174,398
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,241,211	1,172,531
構築物	13,106	11,631
工具、器具及び備品	24,764	25,726
機械装置及び運搬具	512	278
土地	6,798,672	6,787,415
建設仮勘定	3,125	174,022
有形固定資産合計	8,081,392	8,171,606
無形固定資産		
ソフトウェア	14,400	10,600
無形固定資産合計	14,400	10,600
投資その他の資産		
投資有価証券	91,343	109,039
関係会社株式	2,860,890	2,176,169
敷金及び保証金	664,676	662,790
保険積立金	249,406	252,163
その他	1,110,084	1,129,231
投資損失引当金	318,776	91,826
投資その他の資産合計	3,657,625	3,237,568
固定資産合計	11,753,418	11,419,775
資産合計	13,680,827	13,594,174

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1,500,000	-
未払金	1,157,977	1,109,529
その他	1,20,173	1,29,160
流動負債合計	678,150	138,689
固定負債		
繰延税金負債	64,109	71,122
役員退職慰労引当金	486,950	511,133
資産除去債務	221,570	217,026
固定負債合計	772,630	799,281
負債合計	1,450,781	937,971
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金		
資本準備金	52,525	52,525
その他資本剰余金	165,498	165,498
資本剰余金合計	218,024	218,024
利益剰余金		
利益準備金	197,474	197,474
その他利益剰余金		
別途積立金	2,350,000	2,350,000
繰越利益剰余金	9,467,543	10,139,916
利益剰余金合計	12,015,018	12,687,390
自己株式	1,018,690	1,277,189
株主資本合計	12,214,352	12,628,224
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,693	27,977
評価・換算差額等合計	15,693	27,977
純資産合計	12,230,045	12,656,202
負債純資産合計	13,680,827	13,594,174

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業収益	1,251,500	1,290,216
営業費用	1,287,175	1,210,664
営業利益	1,634,325	1,838,729
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,675	1,471
貸倒引当金戻入額	131,435	-
投資損失引当金戻入額	84,081	83,989
為替差益	20	1
その他	2,641	4,196
営業外収益合計	224,936	92,858
営業外費用		
支払利息	1,666	1,833
貸倒引当金繰入額	-	28,208
その他	1,322	142
営業外費用合計	2,989	29,183
経常利益	1,856,271	1,902,403
特別利益		
子会社株式売却益	77,460	-
固定資産売却益	-	3,417
特別利益合計	77,460	3,417
特別損失		
子会社株式評価損	104,272	206,979
子会社清算損	1,457	-
固定資産除却損	28	-
その他	-	5,962
特別損失合計	105,757	212,942
税引前当期純利益	1,827,974	1,692,878
法人税、住民税及び事業税	25,031	22,079
法人税等調整額	4,693	1,600
法人税等合計	20,337	23,680
当期純利益	1,807,637	1,669,197

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							利益剰余金 合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		別途積立金	繰越利益剰 余金	
当期首残高	1,000,000	52,525	165,498	218,024	197,474	2,350,000	8,488,950	11,036,425
当期変動額								
剰余金の配当							829,044	829,044
当期純利益							1,807,637	1,807,637
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	978,592	978,592
当期末残高	1,000,000	52,525	165,498	218,024	197,474	2,350,000	9,467,543	12,015,018

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,018,598	11,235,850	17,418	17,418	11,253,269
当期変動額					
剰余金の配当		829,044			829,044
当期純利益		1,807,637			1,807,637
自己株式の取得	91	91			91
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）			1,725	1,725	1,725
当期変動額合計	91	978,501	1,725	1,725	976,775
当期末残高	1,018,690	12,214,352	15,693	15,693	12,230,045

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
						別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,000,000	52,525	165,498	218,024	197,474	2,350,000	9,467,543	12,015,018
当期変動額								
剰余金の配当							996,825	996,825
当期純利益							1,669,197	1,669,197
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	672,372	672,372
当期末残高	1,000,000	52,525	165,498	218,024	197,474	2,350,000	10,139,916	12,687,390

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,018,690	12,214,352	15,693	15,693	12,230,045
当期変動額					
剰余金の配当		996,825			996,825
当期純利益		1,669,197			1,669,197
自己株式の取得	258,499	258,499			258,499
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			12,284	12,284	12,284
当期変動額合計	258,499	413,872	12,284	12,284	426,157
当期末残高	1,277,189	12,628,224	27,977	27,977	12,656,202

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。但し、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～50年

車両運搬具 5～6年

工具、器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権について個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 投資損失引当金

関係会社への投資に対する損失に備えるため、投資先の財政状態及び経営成績等を勘案した必要額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点については、(収益認識関係)に記載のとおりです。

(重要な会計上の見積り)

関係会社株式の評価

1. 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
関係会社株式	2,860,890	2,176,169
投資損失引当金	318,776	91,826

2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

市場価格のない関係会社株式は、取得原価をもって貸借対照表価額としていますが、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、相当の減額を行い、評価差額は当事業年度の損失として処理することとしております。

また、実質価額が著しく低下している状況には至っていないものの、期末における実質価額が30%以上低下した際には、投資損失引当金を計上しております。

実質価額は、資産等の時価評価に基づく評価差額、および超過収益力等を反映した1株当たり純資産額を基礎として算定しております。

関係会社株式の評価は、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、予測不能な事態により関係会社の経営環境が悪化した場合、翌事業年度の財務諸表において、関係会社株式または投資損失引当金の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
短期金銭債権	378,219千円	169,336千円
短期金銭債務	642,479千円	35,249千円
長期金銭債権	78,446千円	92,034千円

(損益計算書関係)

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業収益	2,507,500千円	2,894,516千円
営業費用	332,108千円	497,109千円
営業取引以外の取引高	6,484千円	3,608千円

2 営業費用のうち主要な費目及び金額は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
役員報酬	133,202千円	137,424千円
出向料	136,913千円	140,661千円
租税公課	91,195千円	110,107千円
減価償却費	90,107千円	91,843千円
役員退職慰労引当金繰入額	23,975千円	24,182千円

(有価証券関係)
子会社株式及び関連会社株式
前事業年度(2022年3月31日)

区分	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
子会社株式	131,186	8,851,968	8,720,781
合計	131,186	8,851,968	8,720,781

当事業年度(2023年3月31日)

区分	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
子会社株式	131,186	7,875,648	7,744,461
合計	131,186	7,875,648	7,744,461

(注) 上記に含まれない市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
子会社株式	2,729,703	2,044,982

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
(繰延税金資産)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
役員退職慰労引当金	148,909千円	156,304千円
ゴルフ会員権評価損	10,045千円	10,045千円
投資損失引当金	97,481千円	28,080千円
資産除去債務	67,756千円	68,979千円
減価償却費	36,785千円	95,577千円
子会社株式 (会社分割に伴う承継会社株式)	12,723千円	12,723千円
貸倒引当金	-千円	8,626千円
子会社株式評価損	159,030千円	266,042千円
税務上の繰越欠損金	89,295千円	70,977千円
その他	14,974千円	13,290千円
計	637,003千円	730,648千円
評価性引当額	637,003千円	730,648千円
繰延税金資産合計	-千円	-千円

(繰延税金負債)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産除去債務	57,196千円	58,797千円
その他有価証券評価差額金	6,912千円	12,324千円
繰延税金負債合計	64,109千円	71,122千円
繰延税金負債純額	64,109千円	71,122千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.58%	30.58%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.17%	0.21%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	28.87%	38.84%
住民税均等割額	0.13%	0.14%
繰越欠損金	1.20%	-
評価性引当額	0.30%	8.18%
その他	0.00%	1.12%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	1.11%	1.40%

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

純粋持株会社の当社の主な収益は、子会社からの経営管理サービスの報酬、WDBブランドの使用料及び受取配当金であります。

経営管理サービスの報酬については、子会社への契約内容に応じた受託業務を提供することを履行義務と判断しております。経営管理サービスは、契約期間内に日常的、反復的に行われるものであり、契約を履行するにつれて、子会社は便益を享受するため、履行義務は一定の期間で充足されると判断し、契約上の金額を契約期間に按分し収益を認識しております。

WDBブランドの使用料に関しては、子会社に対して上場会社の信用力を提供することを履行義務と判断しております。WDBブランドの使用は、契約期間内に日常的、反復的に行われるものであり、契約を履行するにつれて、子会社は便益を享受するため、履行義務は一定の期間で充足されると判断し、契約上の金額を契約期間に按分し収益を認識しております。

これらの取引の対価は、月次締後、1カ月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。

受取配当金については、配当金の効力発生日をもって認識しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,241,211	11,567	0	80,247	1,172,531	1,074,241
	構築物	13,106	-	-	1,474	11,631	28,633
	工具器具備品	24,764	6,660	430	5,268	25,726	90,242
	機械装置及び運搬具	512	-	81	152	278	189
	土地	6,798,672	-	11,257	-	6,787,415	-
	建設仮勘定	3,125	170,897	-	-	174,022	-
	計	8,081,392	189,126	11,770	87,142	8,171,606	1,193,306
無形固定資産	ソフトウェア	14,400	-	-	3,800	10,600	8,400
	計	14,400	-	-	3,800	10,600	8,400

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	-	28,208	-	28,208
投資損失引当金	318,776	28	226,977	91,826
役員退職慰労引当金	486,950	24,182	-	511,133

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。なお、電子公告は当会社のホームページに掲載いたします。アドレスは次のとおりです。 https://www.wdbhd.co.jp
株主に対する特典	毎年3月末の株主名簿に記載された、100株以上を保有する株主に対し、Q U Oカード(1,000円分)を贈呈いたします。

(注) 単元未満株主の権利を次のとおり制限しております。

単元未満株主は、会社法第189条第2項に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当てを受ける権利、ならびに単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の単元未満株式を売り渡すことを請求する権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | |
|-------------------------------|----------------|---|---|
| (1) 有価証券報告書及びその添付書類
並びに確認書 | 事業年度
(第37期) | 自 2021年4月1日
至 2022年3月31日 | 2022年6月27日
近畿財務局長に提出。 |
| (2) 内部統制報告書及びその添付書類 | 事業年度
(第37期) | 自 2021年4月1日
至 2022年3月31日 | 2022年6月27日
近畿財務局長に提出。 |
| (3) 四半期報告書及び確認書 | (第38期第1四半期) | 自 2022年4月1日
至 2022年6月30日 | 2022年8月10日
近畿財務局長に提出。 |
| | (第38期第2四半期) | 自 2022年7月1日
至 2022年9月30日 | 2022年11月14日
近畿財務局長に提出。 |
| | (第38期第3四半期) | 自 2022年10月1日
至 2022年12月31日 | 2023年2月13日
近畿財務局長に提出。 |
| (4) 臨時報告書 | | | 2022年6月27日 近畿財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。 |
| (5) 自己株券買付状況報告書 | | 報告期間(自2022年11月1日 至2022年11月30日)
2022年12月16日 | 近畿財務局長に提出 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2023年6月21日

WDBホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
神戸事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 目細 実

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村上 育史

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているWDBホールディングス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、WDBホールディングス株式会社及び連結子会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

人材サービス事業に係る売上高計上の正確性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>連結損益計算書に計上されている売上高47,602百万円のうち、人材サービス事業を営むWDB株式会社で計上している売上高は39,163百万円と約82%を占めている。</p> <p>人材サービス事業に関する個々の取引金額は売上高計上額全体に比べて極めて少額であるが、顧客数・契約口数は非常に多く、処理される取引件数も膨大なものとなっている。人材サービス事業に関する売上計上プロセスは、派遣単価データと派遣時間データに基づき業務処理システムによって自動で計算・集計され、計算結果を会計システムへ取り込む仕組みとなっており、業務プロセス全体を通じて業務処理システムの自動化統制に高度に依存している。</p> <p>当監査法人はこれらの人材サービス事業に関する内部統制の有効性の評価を実施するためには、業務処理システムに関して相応の専門的な知識及び経験が必要不可欠であると判断した。また、人材サービス事業に係る売上高から誤りが生じた場合には、業務処理システムの自動化統制に高度に依存しているが故にその影響が広範囲に及び、かつ、その金額的重要性に鑑みると利益への影響も大きなものとなる可能性が高いと考えられる。これらのことから、人材サービス事業に係る売上高計上の正確性を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>WDB株式会社の人材サービス事業に係る売上高を検討するにあたり、主に以下の手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価 会社の内部環境、外部環境を理解するとともに、人材サービス事業に係る売上高の信頼性を確かめるために関連する業務処理システムの全般統制及び売上高の業務プロセスに係る主に以下の内部統制の整備状況、運用状況を確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務処理システムへ入力された契約データ・派遣時間を基にシステム上で行われる売上金額の自動計算 ・業務処理システムと会計システム間のデータ連携に係る内部統制 ・業務処理システムにサービス提供先により承認されたタイムシートに基づき勤務時間が入力されていることを確かめる内部統制 <p>自動化された内部統制及び関連する全般統制の評価範囲の決定及び評価の実施にあたっては、当監査法人内部のIT専門家を関与させた。</p> <p>(2) 売上高の計上額の検討 年間の売上高データの提供を受け、営業担当者別、支店別、得意先別の月次売上高推移に異常な点がないかを検討した。</p> <p>売上高の母集団に対して監査サンプリング（統計的サンプリング）を行い、派遣社員が提出するタイムシート上の勤務時間と派遣受注票上の時間単価に基づいて算定した売上金額との一致を検証した。</p>

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、WDBホールディングス株式会社の2023年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、WDBホールディングス株式会社が2023年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年6月21日

WDBホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
神戸事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 目細 実

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村上 育史

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているWDBホールディングス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、WDBホールディングス株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

関係会社株式の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>貸借対照表に計上されている関係会社株式2,176百万円は総資産額の約16%に相当する。また、これに関連して投資損失引当金を91百万円、損益計算書において子会社株式評価損を206百万円計上している。</p> <p>注記事項の重要な会計上の見積りに記載のとおり、市場価格のない関係会社株式については、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、相当の減額を行い、評価差額は当事業年度の損失として処理している。また、実質価額が著しく低下している状況には至っていないものの、実質価額が30%以上低下したときには、投資損失引当金を計上している。当該実質価額の測定に際しては、発行会社の超過収益力等を反映して、1株当たりの純資産額を基礎とした金額に比べて相当高い価額が実質価額として評価される場合もある。</p> <p>当監査法人は、関係会社株式は貸借対照表における金額的重要性が高く、実質価額の低下により減損処理、または投資損失引当金の計上が行われると、財務諸表全体に与える金額的影響が大きくなる可能性があること、実質価額が著しく低下した場合に行う回復可能性の検討は、経営者の判断を伴うことから、関係会社株式の評価を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>関係会社株式の評価の検討にあたり、主に以下の手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価 会社が関係会社株式の評価のために作成した資料が経理責任者により適切に承認されていることを検討した。</p> <p>(2) 関係会社株式の評価の検討 取締役会等の議事録の閲覧及び経営者や経理責任者等への質問を通じて関係会社の経営環境を理解し、財政状態の悪化の兆候を示唆する関係会社の有無を確かめた。関係会社株式の評価のために策定された会社の評価方針が、「金融商品に関する会計基準」等に準拠しているか、また当事業年度末において会社の評価方針に基づいて評価を実施しているかを検討した。</p> <p>会社が作成した帳簿価額と実質価額の比較表を閲覧し、実質価額に使用される各関係会社の純資産額が、決算数値と一致していることを確かめた。</p> <p>超過収益力等を反映して実質価額を算定していた関係会社については、買収時の損益計画と実績の比較を実施するとともに、経理責任者に将来計画に重要な影響を与える事象の有無を質問することにより、評価の妥当性を検討した。</p>

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。